socionext
The Solution SoC Company

2026年度 第2四半期

決算概要と成長戦略



2026年10月28日
株式会社ソシオネクスト

免責事項

本資料は、株式会社ソシオネクスト（以下「当社」といいます。）に関する一定の情報を提供することのみを目的として作成されたものです。本資料は、当社普通株式その他の有価証券の売買を勧誘または申し込みを行うものではありません。本資料及びその記載内容は、当社の書面による事前の同意なく、全部または一部を問わず、第三者により複製、転載または再配布されることはできません。
本資料に記載された情報は、本資料作成日現在の経済状況、市場環境、規制その他の条件に基づいています。当社およびそのアドバイザーまたは関係者は、本資料に含まれる情報の正確性、完全性または妥当性について、明示または黙示を問わず、いかなる表明または保証も行うものではありません。将来の状況の変化により、本資料に記載された情報が影響を受ける可能性があります。したがって、本資料に記載された情報は、事前の通知なく重要な変更が行われることがあります。
本資料には、予測、見通し、目標および計画など、将来に関する記述が含まれている場合があります。これらの将来に関する記述は、当社経営陣による将来業績を保証するものではありません。また、これらの記述は、本資料作成時点における当社の前提および仮定に基づくものであり、既知および未知のリスク、不確実性その他の要因の影響により、実際の業績、結果または達成状況が、これらの記述に明示または黙示されている内容と大きく異なる可能性があります。
本資料において別途明示されていない限り、本資料に記載された見解、記述および見通しは当社のものであり、第三者により提供または作成された情報については、公開情報その他引用された情報源に基づくもので、当社はその正確性または妥当性について独自の検証を行っていません。

Copyright 2026 Socionext Inc.

商談獲得金額及び商談獲得残高に関する注意事項

商談獲得金額および商談獲得残高の算出には、将来に関する見積りおよび主観的判断が相当含まれています。これらの算出は、開発計画、開発コスト、NRE売上、製品単価、将来の製品販売数量に関する見込みに加え、個々の製品の想定販売期間および中止となる可能性に関する見込み等の前提に基づいています。
製品の販売数量は、顧客から提示された初期的な数量見込みに加え、顧客との過去の取引実績、第三者による市場データその他の要因を織り込んだ当社独自の予測に基づき算定していますが、製造委託先における製造キャパシティの制約などは十分に考慮していません。
売上高の分析および商談獲得残高の算定にあたっては、当社は、顧客需要が「特需」に該当するかどうかを評価しています。「特需」とは、在庫の積み増しなど、市場の本源的な需要を反映しない活動に起因する短期的な需要を指します。
当社は、当該需要に関連するさまざまな要因を考慮したうえで、各案件について当社の判断により、当該需要が特需に該当するかどうかを個別に決定しています。その結果、特需として識別された金額は、この定義に照らして必ずしも客観的に正確であるとは限りません。
当社は、商談獲得残高を長期的な売上動向を評価・分析するための指標として位置付けていることから、このような短期的な特需は商談獲得残高から除外することが適切であると考えています。特需に起因する売上高は、長期的な需要の前倒しにより短期的に膨らんだ需要とみるべきものであり、過去および将来の業績動向を分析するにあたっては、重視すべきではないと考えています。商談獲得残高は、特需の発生有無やその金額の大小には影響されない一方で、特需を除く需要に関する予測前提の変化を反映して変動する可能性があります。
当社は、過去にも行ってきたとおり、将来、商談獲得金額および商談獲得残高の算出方法を変更する可能性があります。そのため、期間ごとの単純な比較は、長期的なトレンドを把握する目的を除き、必ずしも有意ではない場合があります。
商談獲得に関する情報は、管理会計ベースで算出され、経営陣が業績評価および戦略・計画立案を行うために内部的に作成・利用されているものです。商談獲得に関する情報は参考情報として提供されるものであり、これに過度に依拠すべきではありません。将来予測に関する一定のリスクについては、本資料2ページをご参照ください。

Copyright 2026 Socionext Inc.

socionext
The Solution SoC Company

2026年度第2四半期連結決算

- 2026年度第2四半期 連結決算概要
- 2026年度通期 予想

今後の更なる成長に向けて



4

2026年度第2四半期　連結損益計算書

（単位：億円）

	2025年度				2026年度		前年同期比		前四半期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		増減率		増減率
売上高	**346**	**527**	**549**	**587**	**390**	**604**	**+77**	**+14.7%**	**+213**	**+54.7%**
製品売上	259	445	443	471	274	502	+57	+12.8%	+228	+83.0%
NRE売上	85	80	104	115	116	102	+23	+28.4%	-14	-11.7%
その他	2	2	2	1	0	0	-2		-0	
売上原価	**144**	**309**	**311**	**347**	**177**	**365**	**+56**	**+18.3%**	**+188**	**+106.1%**
製品売上原価率	55.6%	69.4%	70.2%	73.6%	64.7%	72.8%	+3.4pt		+8.1pt	
販売費及び一般管理費	**187**	**195**	**204**	**189**	**220**	**215**	**+21**	**+10.7%**	**-4**	**-2.0%**
研究開発費	142	147	153	143	170	168	+21	+14.5%	-1	-0.8%
販売費・管理費	45	47	51	46	50	47	-0	-1.0%	-3	-6.3%
営業利益	**14**	**23**	**34**	**52**	**-7**	**23**	**+0**		**+30**	
営業利益率	4.2%	4.4%	6.3%	8.8%	-1.7%	3.9%	-0.5pt		+5.6pt	
当期純利益	**5**	**16**	**27**	**40**	**-6**	**21**	**+5**		**+27**	
純利益率	1.3%	3.0%	5.0%	6.7%	-1.5%	3.5%	+0.5pt		+5.0pt	
為替レート (USD/JPY)	**144.6**	**147.5**	**154.2**	**156.9**	**159.5**	**159.3**	**+11.8**		**-0.2**	

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

まず、2026年度第2四半期の実績について説明します。

売上高は、604億円、前年同期比 +77億円(+14.7%)の増収、
営業利益は、23億円、前年同期と同額となりました。
純利益は、21億円となりました。

サプライチェーン変更に伴う諸手続きなどの一時的な事情で第1四半期から第2四半期にシフトした車載向け製品の出荷で、製品売上が増加しています。

これに伴う製品構成の変化の影響で、製品粗利率が低下しましたが、売上拡大により、製品粗利額は増加しました。
積極的な先行開発を続けており、研究開発費は高い水準が続いていますが、これを製品粗利額の増加によってカバーし、第1四半期に比べて営業利益が改善しています。

2026年度上期　連結損益計算書

（単位：億円）

		2025年度 1H	2026年度 1H	前年同期比	増減率
売上高		**872**	**994**	**+122**	**+14.0%**
	製品売上	704	776	+72	+10.2%
	NRE売上	164	218	+54	+32.9%
	その他	4	0	-4	
売上原価		**453**	**542**	**+90**	**+19.8%**
	製品売上原価率	64.3%	69.9%	+5.6pt	
販売費及び一般管理費		**382**	**435**	**+54**	**+14.0%**
	研究開発費	290	338	+49	+16.8%
	販売費・管理費	92	97	+5	+5.3%
営業利益		**38**	**17**	**-21**	
	営業利益率	4.3%	1.7%	-2.6pt	
当期純利益		**21**	**15**	**-5**	
	純利益率	2.4%	1.5%	-0.8pt	
為替レート (USD/JPY)		**146.0**	**159.4**	**+13.4**	

socionext

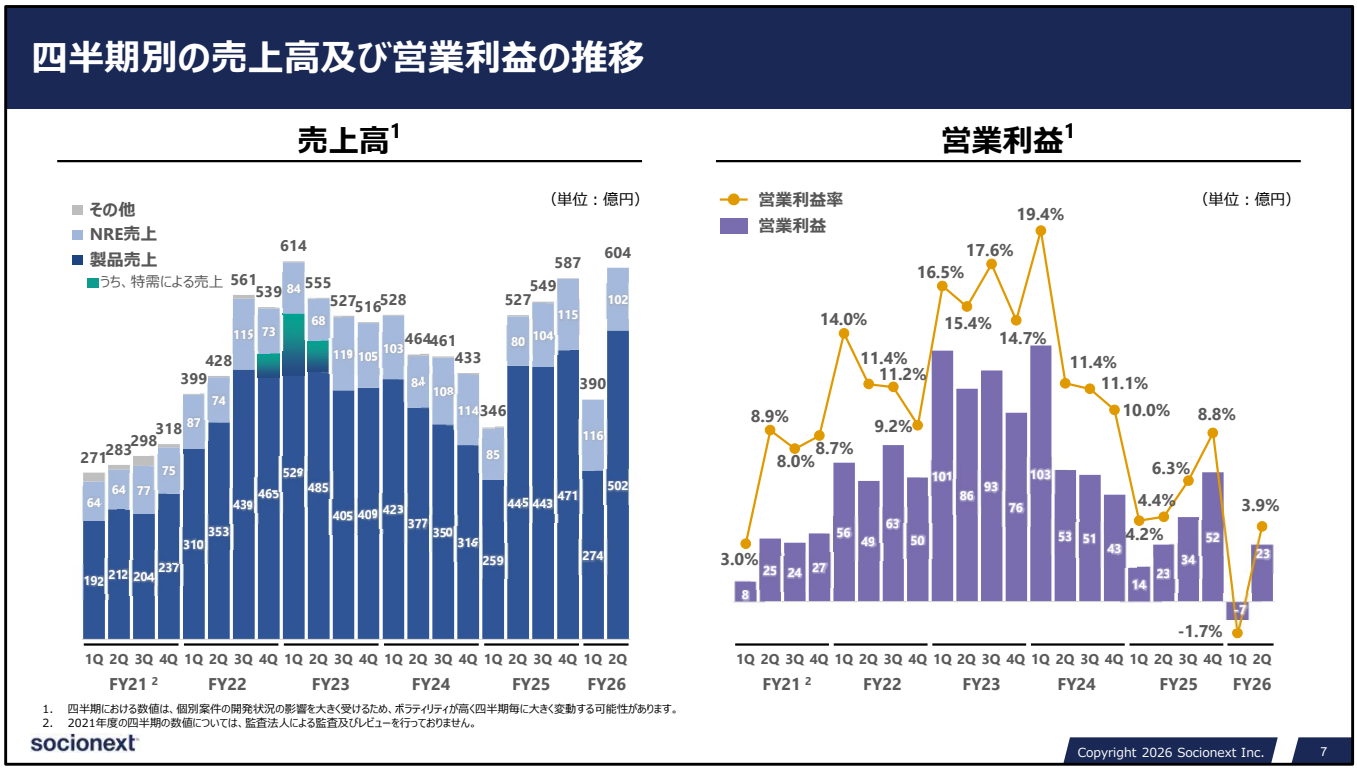
Copyright 2026 Socionext Inc.

次に、2026年度上半期の実績について説明します。

売上高は、994億円、前年同期比 +122億円(+14.0%)の増収、
営業利益は、17億円、前年同期比 -21億円の減益となりました。
純利益は、15億円となりました。

売上高は、通信機器関係の需要減少はありましたが、車載向けや産業機器向け製品の増加などで、拡大しました。
一方、製品構成の変化の影響で製品粗利率が低下したこと、また、積極的な先行開発を続けていることや、下期からの新規量産品のための評価サンプル作成などのため、研究開発費が高い水準となっていることなどから、営業利益は前年同期比-21億円の減益となりました。

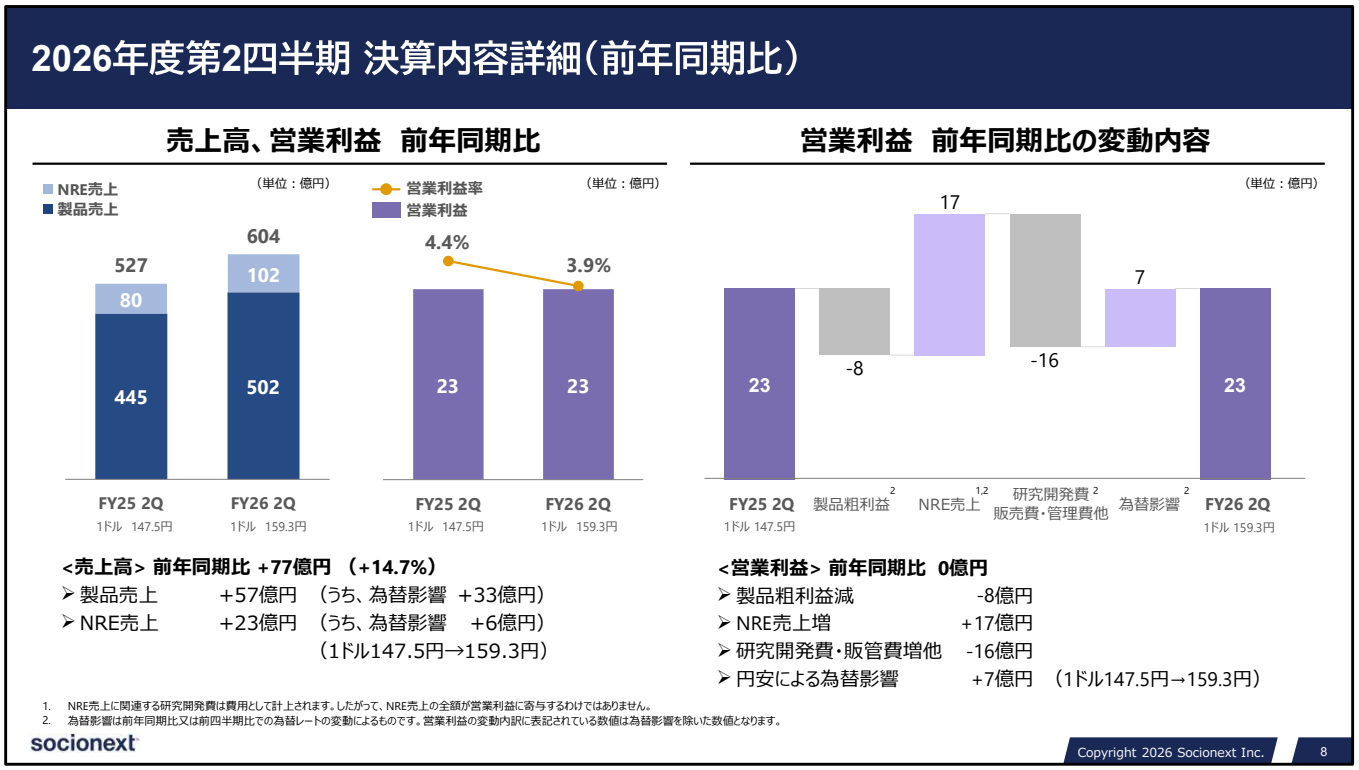
尚、売上高については、上期では為替影響を除くと4月時点の予想を下回っています。



このスライドは、2021年度第1四半期から直近の2026年度第2四半期までの売上高と営業利益の推移を示しています。

先ほど説明した通り、車載向け製品の製品売上が第2四半期にシフトしたことから、製品売上が増加しました。
NRE売上については、引き続き高い水準にありますが、一部、第3四半期にシフトしたため、第1四半期より若干減少しています。

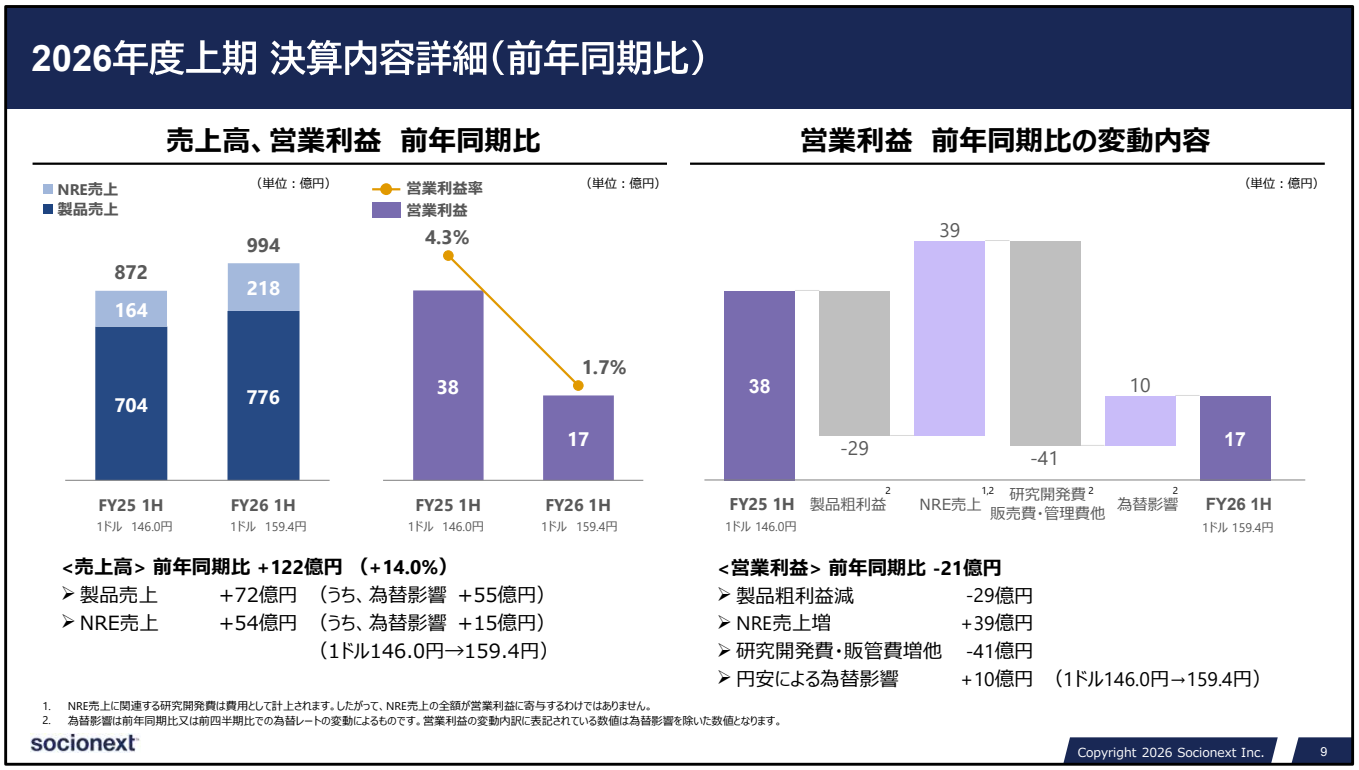
営業利益については、製品粗利率の低下、NRE売上の第3四半期へのシフトや高い水準の研究開発費が続くなどの影響があったものの、売上拡大に伴う製品粗利額増加によってカバーし、23億円の黒字となっています。



このスライドは、2026年度第2四半期の前年同期比での増減要因を示しています。

売上高は、604億円、前年同期比+77億円（+14.7%）の増収となりました。
製品売上は、通信機器関係の需要減少はありましたが、車載向けや産業機器向けの増加などで拡大しました。
また、NRE売上は、データセンター/ネットワーク分野を中心に増加し、前年同期比+23億円の102億円となりました。

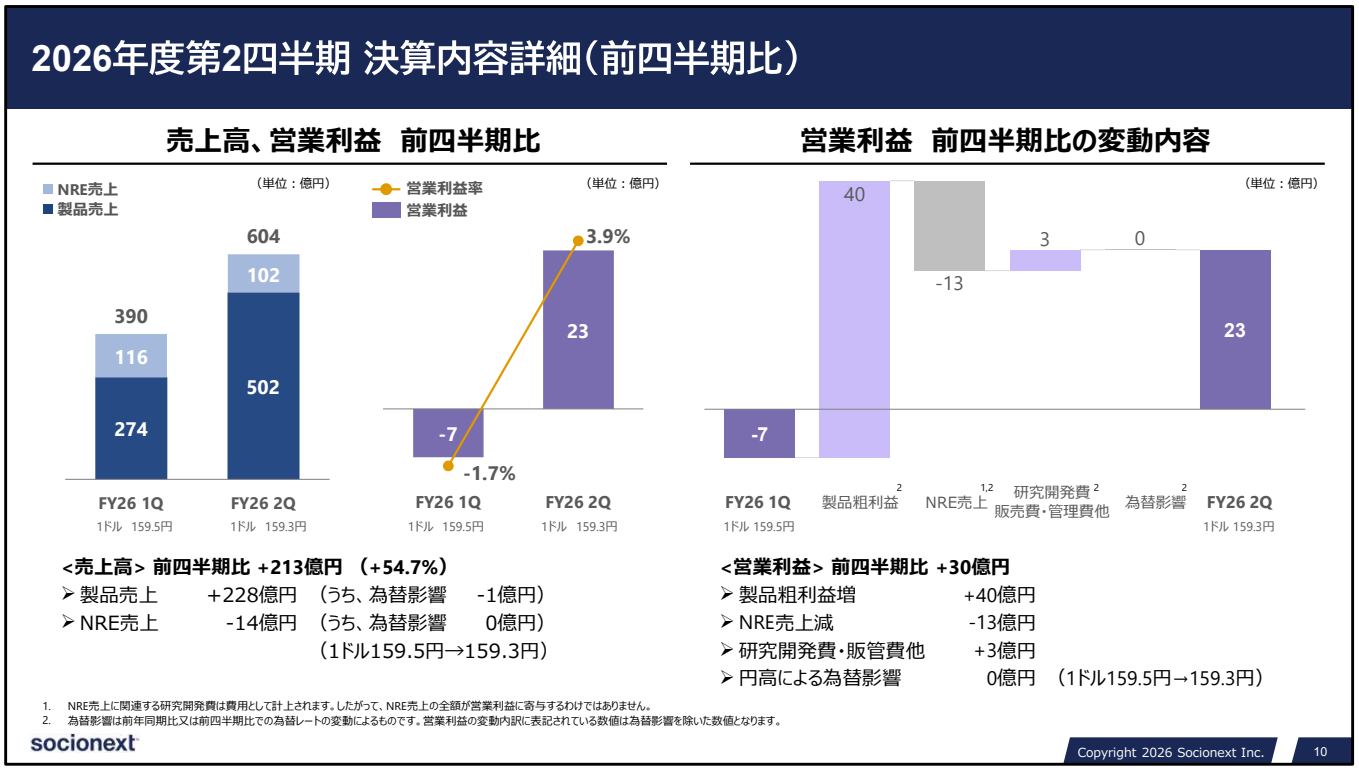
営業利益は、23億円でした。製品原価率の上昇による製品粗利益の減少と下期からの新規量産品のための評価サンプル作成や先行開発のための開発費の影響等がありましたが、NRE売上の増加、円安による為替影響もあり、前年同期と同額となりました。



このスライドは、2026年度上半期の前年同期比での増減要因を示しています。

売上高は、994億円、前年同期比+122億円(+14.0%)の増収となりました。
製品売上は、通信機器関係の需要減少はありましたが、車載向けや産業機器向けの増加などで拡大しました。
また、NRE売上は、データセンター/ネットワーク分野を中心に増加し、前年同期比+54億円の218億円となりました。

営業利益は、17億円、前年同期比-21億円となりました。
NRE売上の増加、円安による為替影響がありましたが、製品原価率の上昇による製品粗利益の減少と下期からの新規量産品のための評価サンプル作成や先行開発などのための開発費の影響等により、減益となりました。
尚、2026年度の年間の製品粗利率については、前年度に対し若干の低下という4月時点の見通しに変わりはありません。



このスライドは、2026年度第2四半期の前四半期比での増減要因を示しています。

売上高は604億円、前四半期比+213億円(+54.7%)の増収となりました。
製品売上は+228億円の増収、NRE売上は-14億円の減収となりました。
製品売上の増加は主に、先ほど説明した、車載向け製品の第1四半期からの売上のシフトの影響によるものです。ただし、上期を通じては、為替影響を除くベースでは、4月時点の予想を下回りました。
NRE売上については、一部、第3四半期にシフトしたものがあったため、第1四半期より若干減少しました。

営業利益は23億円、前四半期比+30億円の増益となりました。
製品構成が変化し、製品粗利率が低下しましたが、売上拡大により、製品粗利額が増加しました。主に製品粗利額の増加により、第1四半期から営業利益が改善しました。
尚、積極的な先行開発を行なっていることから、研究開発費は高い水準が続いています。

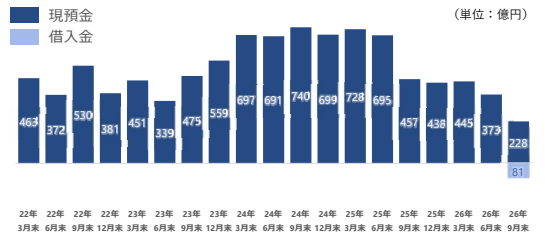
連結貸借対照表（2026年9月末時点）

（単位：億円）

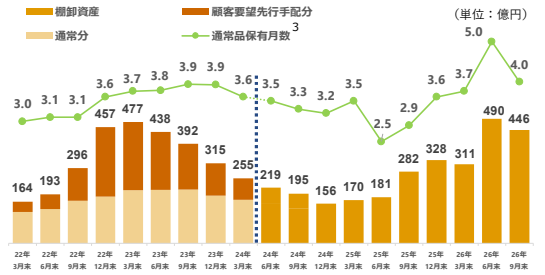
	2026年3月末	2026年9月末	前年度末比
資産	1,676	**1,791**	+115
流動資産	1,228	**1,239**	+11
現預金[1]	445	**228**	-218
売掛金	369	**457**	+88
棚卸資産[2]	311	**446**	+135
未収入金	44	**22**	-22
固定資産	448	**552**	+104
負債	346	**488**	+142
流動負債	325	**465**	+140
買掛金	158	**189**	+31
借入金	0	**81**	+81
未払金	40	**30**	-10
純資産	1,331	**1,303**	-27
自己資本比率	79.4%	**72.8%**	

1. 現預金には短期保有有価証券を含みます。
2. 棚卸資産は製品と仕掛品の合計です。
3. 通常品保有月数＝ 通常品棚卸資産金額÷次期3カ月平均の製品原価金額見通し

現預金・借入金残高[1]



棚卸資産残高[2]



＊2024年度より顧客要望先行手配分と通常分を合計し、棚卸資産として開示しています。

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

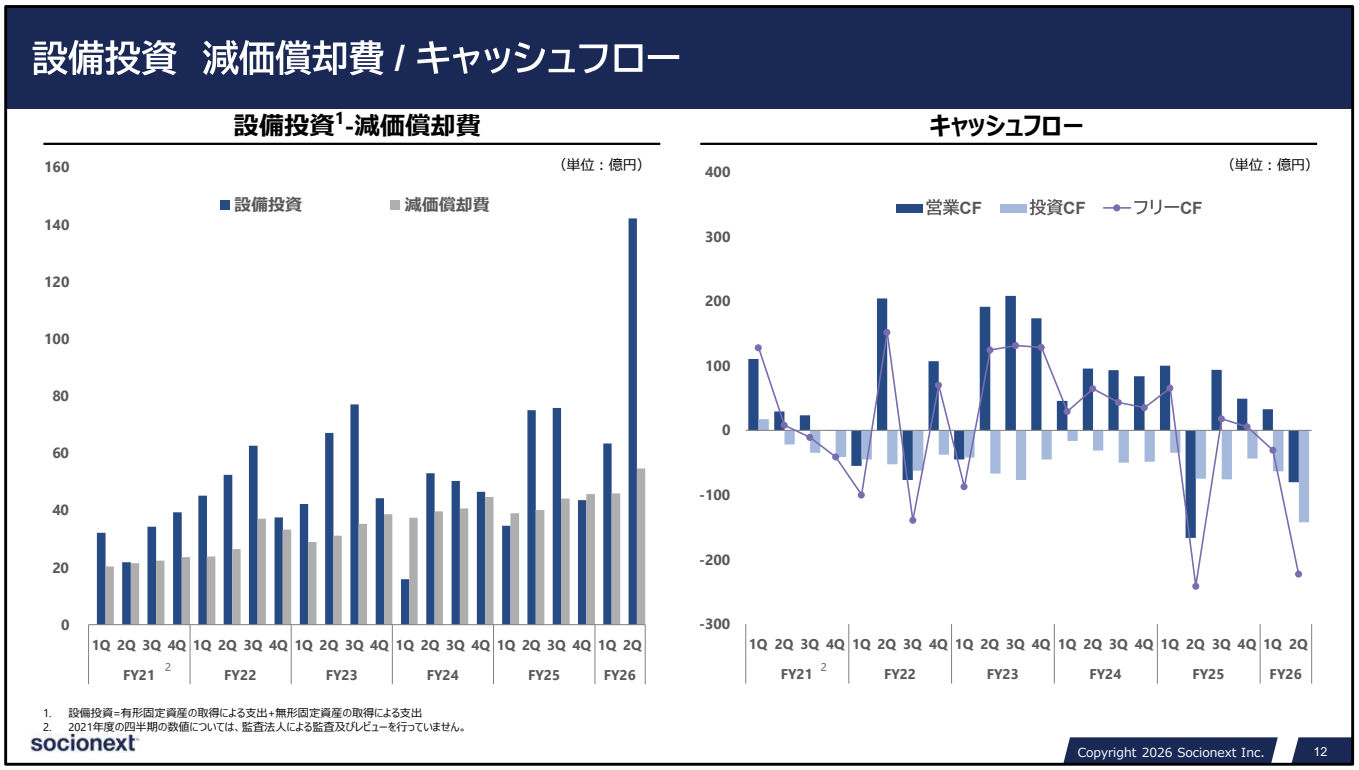
このスライドは、貸借対照表（バランスシート）の状況を示しています。

総資産は、1,791億円、前年度末比+115億円となりました。
負債は、488億円、前年度末比+142億円の増加、純資産は1,303億円、前年度末比-27億円の減少でした。

総資産については、下期から本格的に出荷の始まる北米車載向けおよび北米データセンター向け製品の生産が始まったことによる棚卸資産の増加、新製品のレチクル等の購入に伴う固定資産の増加がありました。

現預金は228億円で、前年度末比-218億円となりました。第2四半期より借入を行っており、第2四半期末での借入金の残高は81億円でした。下期から本格的に出荷の始まる北米車載向けおよび北米データセンター向け製品の生産増などに必要な短期運転資金です。

棚卸資産は、前年度末比+135億円増加し、446億円、通常保有月数4.0か月分となりました。
下期から本格的に出荷の始まる北米車載向けおよび北米データセンター向け製品の生産増などの影響です。今後、売上拡大が見込まれるため、一時的な増減はあるものの、棚卸資産は今暫く増加していくものと見ています。また、これに伴い必要な短期運転資金も当面増加していきます。
尚、棚卸資産を経由した為替変動の製品原価率への影響（いわゆる間接為替影響）についても、棚卸資産が増加して行きますので、これまで以上に注視していきたいと思います。



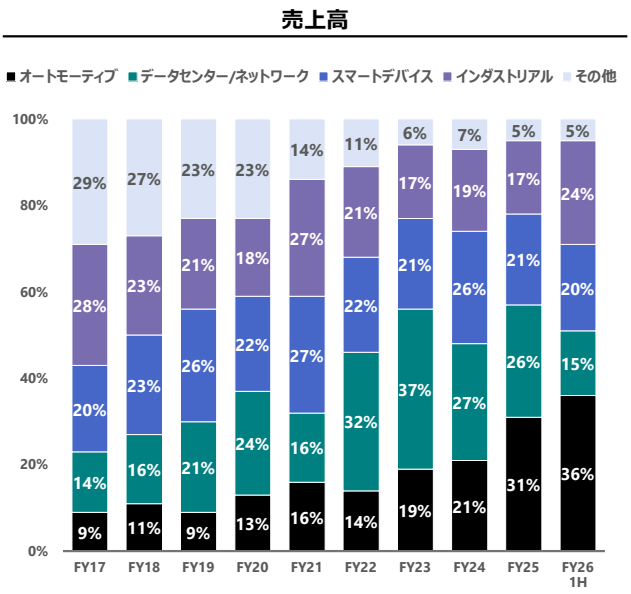
このスライドは、設備投資と減価償却費の状況及び、キャッシュフローの状況を示しています。

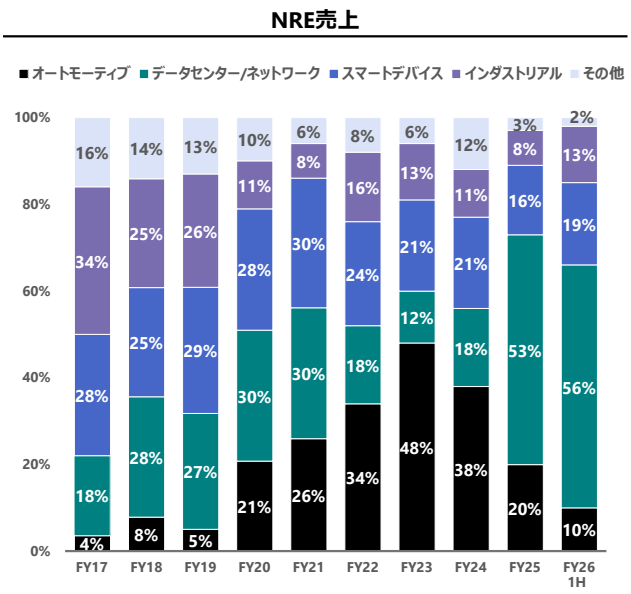
第2四半期の設備投資の増加は、先端プロセス製品のレチクルやIP投資によるものです。
減価償却費もこれらの投資増を反映して増加しています。今後も先端開発の拡大に伴い減価償却費は増加していくものと見ています。

第2四半期のキャッシュフローについては、営業キャッシュフローが-80億円となりました。これは主に車載向け製品の製品売上などに伴う売掛金が増加したことによるものです。

また、投資キャッシュフローは、先端品の開発及び成長のための投資が続き、-142億円でした。
その結果、フリーキャッシュフローは、-222億円となりました。

売上の内訳(アプリケーション別)





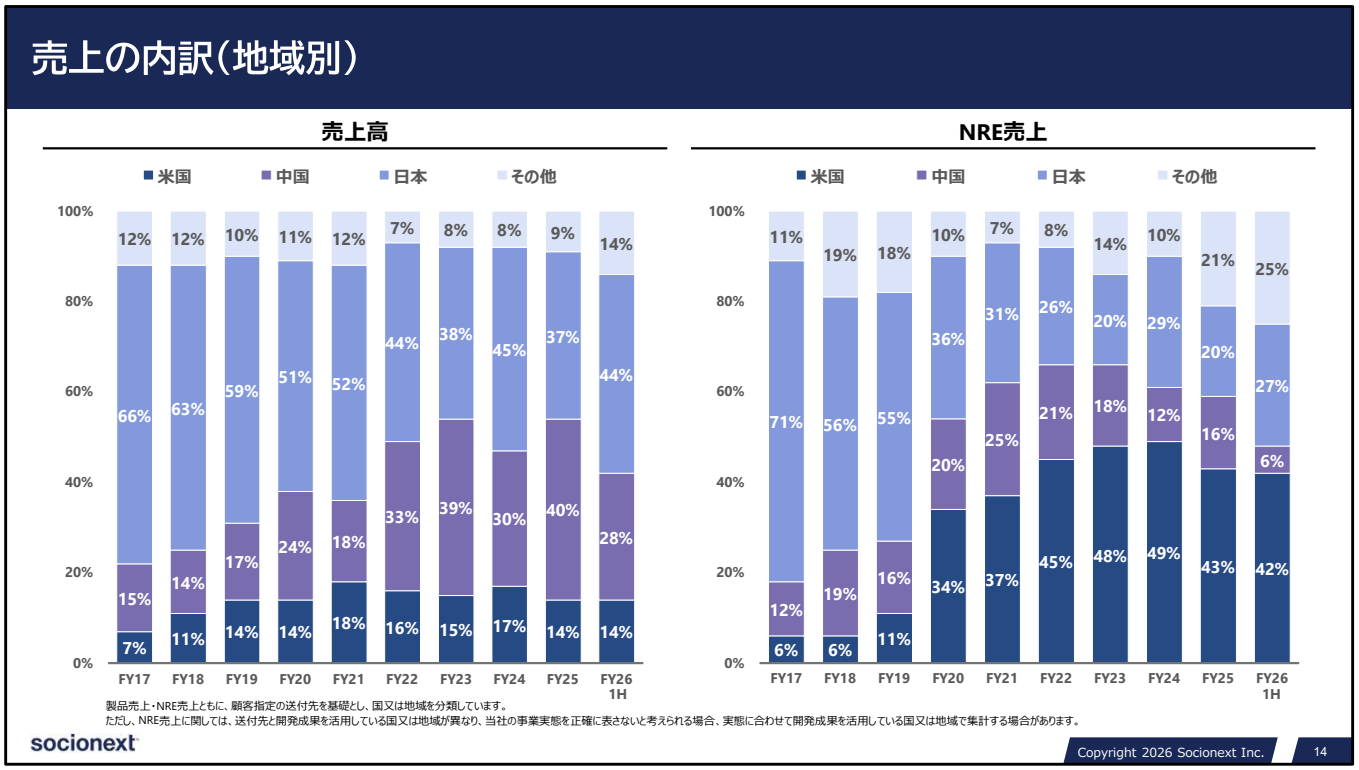
socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

このスライドは、アプリケーション別の売上高と、その内数であるNRE売上の内訳の推移を示しています。

売上高については、車載向け製品の出荷を第2四半期に再開したことにより、オートモーティブ分野の比率が36%に上昇しました。データセンター/ネットワーク分野の比率が減少していますが、これは、通信機器向け製品の減少によるものです。

NRE売上については、引き続き、データセンター/ネットワーク分野の比率が高くなっています。

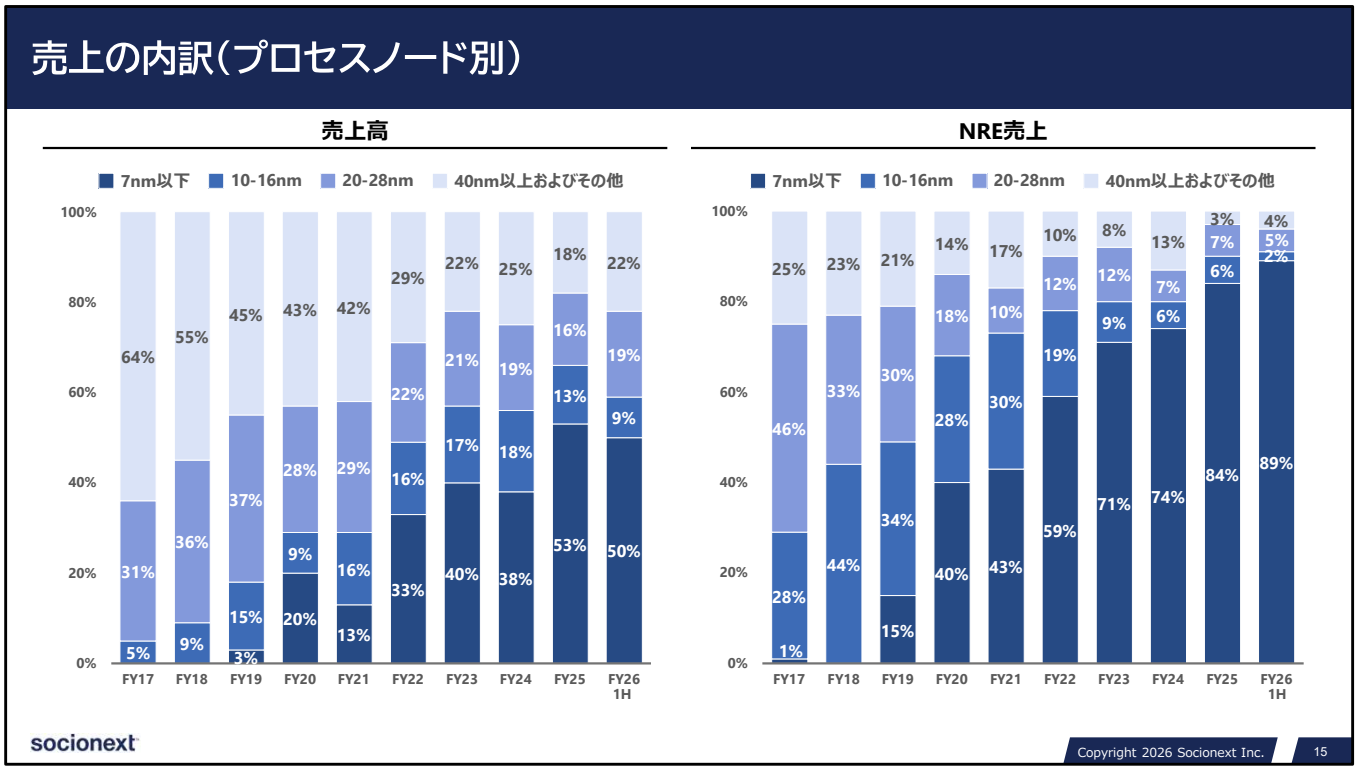


こちらは地域別の内訳となります。

売上高は、車載向け製品の増加はあったものの、通信機器向け製品の減少などがあったため、中国向けの比率が低下しました。
日本向けはインダストリアルやスマートデバイス向けが堅調なため、一時的に比率が上昇しています。

NRE売上は、引き続き北米向けの比率が高い状況が続いていますが、開発時期の影響でスマートデバイス向けなどの日本向けの比率が上昇しています。
米国、中国を含むその他地域、日本の各地域でバランスの取れた商談の獲得と売上拡大を目指していきます。

尚、現在報告している売上の地域別内訳は、顧客指定の送付先を基礎とし、国又は地域を分類しています。しかし、当社SoCの送付先と、顧客が主に事業を行なっている所在国又は地域が異なる場合があります。今のところ、このような売上の割合は大きくありませんが、今後、これが増加していった場合には、当社の事業実態をより適切に示す方法を考える必要があるかもしれません。



こちらはプロセスノード別の内訳です。

売上高については、通信機器向け製品の減少などがあったため、2026年度上半期合計では7nm以下の先端プロセスノードの比率が前年度に比べ若干低下しました。しかし、第2四半期以降は7nm以下の比率が増加しており、第3四半期以降もこの傾向が継続していくと見ています。

NRE売上は、7nm以下のプロセスノードの比率が約90%となっています。5nm以下が大宗を占めています。

socionext
The Solution SoC Company

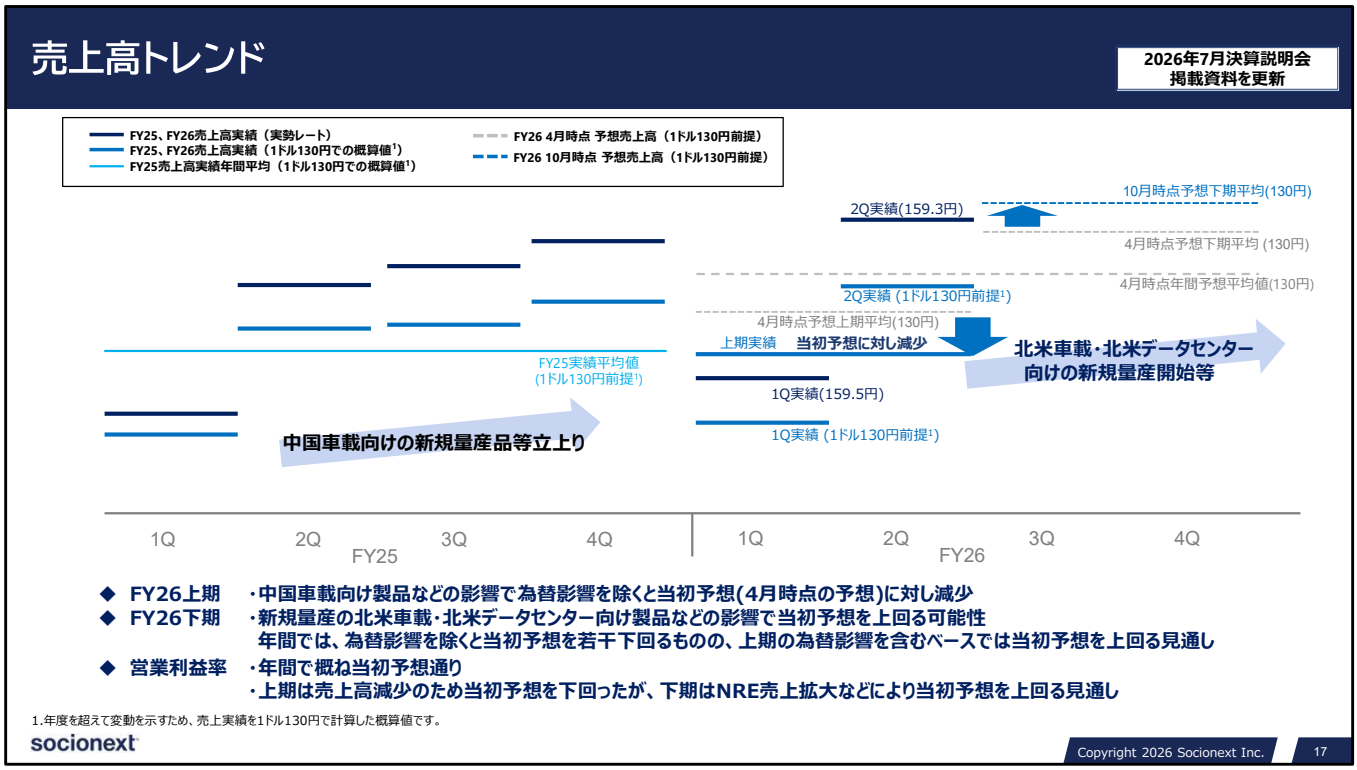
2026年度第2四半期連結決算

- 2026年度第2四半期 連結決算概要
- 2026年度通期 予想

今後の更なる成長に向けて



16



このスライドは、7月の説明会で示した、2025年度売上高実績及び、2026年度売上高予想の推移を更新したものです。

青色の実線が、1ドル130円の概算値で四半期毎の実績を示しています。
また、青色の破線は10月時点での1ドル130円での下期の売上高予想を示しています。

売上高については、これまで説明した通り、2026年度上期は、第1四半期から第2四半期へ、車載向け製品の売上のシフトがありました。このため、第2四半期の売上高は第1四半期を上回りましたが、上期を通じては、車載向け製品などの影響で、当初予想(4月時点の予想)に対し減少しました。また、一部のNRE売上の第3四半期へのシフトもありました。
下期の売上高は、北米車載および北米データセンター向けの新規量産が始まり、既存商品とともにこれら製品が貢献し、当初予想を上回る可能性があります。
尚、年間での売上高は、為替影響を除くベースで当初予想を若干下回りますが、上期の為替影響を含むベースでは当初予想を上回ると見ています。

営業利益率についても、上期は売上高減少等のため、当初予想を下回りました。下期は当初予想を上回るNRE売上拡大などにより営業利益が増加すると見ており、年間では概ね当初予想通りになると考えています。

2026年度 通期予想

（単位：億円）

	2025年度 実績	2026年度予想 4月時点(当初予想)	2026年度予想 10月時点	当初予想比	増減率	前年比	増減率
売上高	**2,008**	**2,150**	**2,250**	+100	4.7%	+242	12.0%
営業利益	**124**	**140**	**155**	+15	10.7%	+31	25.5%
営業利益率	**6.2%**	**6.5%**	**6.9%**	+0.4pt		+0.7pt	
当期純利益	**87**	**100**	**105**	+5	5.0%	+18	20.2%
当期純利益率	**4.3%**	**4.7%**	**4.7%**	±0.0pt		+0.4pt	
1株当たり当期純利益[1]	**49円74銭**	**57円02銭**	**59円86銭**				
1株当たり配当金	**50円00銭**	**50円00銭**	**50円00銭**				
為替レート（USD/JPY）	**150.8円**	**130.0円**	**144.7円**（上期159.4円/下期130円）				

- ・2026年度4月時点予想における年間での為替感応度は、ドルに対して1円の変動で、売上高約10億円、営業利益約2.5億円、他の通貨についての影響は軽微と想定していました。ただし、為替感応度は、四半期毎の外貨建ての販売・調達・在庫および開発費によって変動します。
- ・2026年度は、上期に売上高が少なく、下期に多くなるため、上期の為替感応度は、4月時点の想定を下回り、下期については、4月時点の想定を上回ると見ています。

1. 2025年度実績の1株当たり当期純利益は175,560,577株、4月時点の2026年度予想は175,376,573株、10月時点の2026年度予想は175,405,586株を前提に算出しています。

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

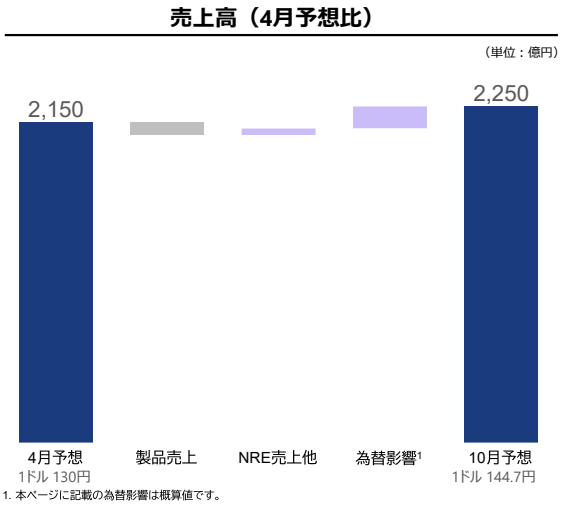
2026年度の予想について、売上高は2,250億円、営業利益は155億円としています。
前提となる為替レートは、上期は実績レートですが、下期は従来通りの1ドル130円です。従って、年間平均為替レートは、1ドル144.7円となります。

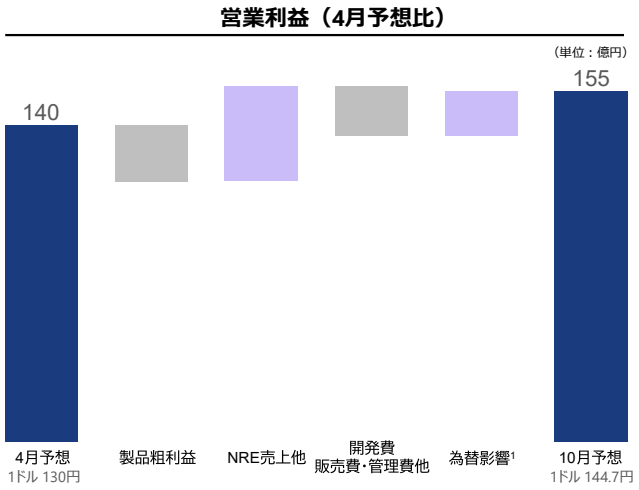
為替感応度については、4月時点予想において、年間では、ドルに対して1円の変動で売上高約10億円、営業利益約2.5億円の影響と想定していました。しかし、2026年度は上期に売上高が少なく、下期に多くなるため、上期の為替感応度は4月時点の想定を下回り、下期は4月時点の想定を上回る見通しです。

年間を通じては、売上高は1ドル130円とすると、4月時点の予想を若干下回りますが、上期の為替影響を含むベースでは4月時点の予想を上回る見通しです。営業利益は概ね4月時点の予想通りと見ています。

2026年度通期 売上・営業利益（4月予想比）

- 売上高は、一部製品売上の次年度へのずれがあるものの、NRE売上増加と為替影響により対4月予想比+100億円
- 営業利益は、先端分野での開発費の増加等の影響、製品粗利益減があるものの、NRE売上の増加、為替影響などで対4月予想比+15億円





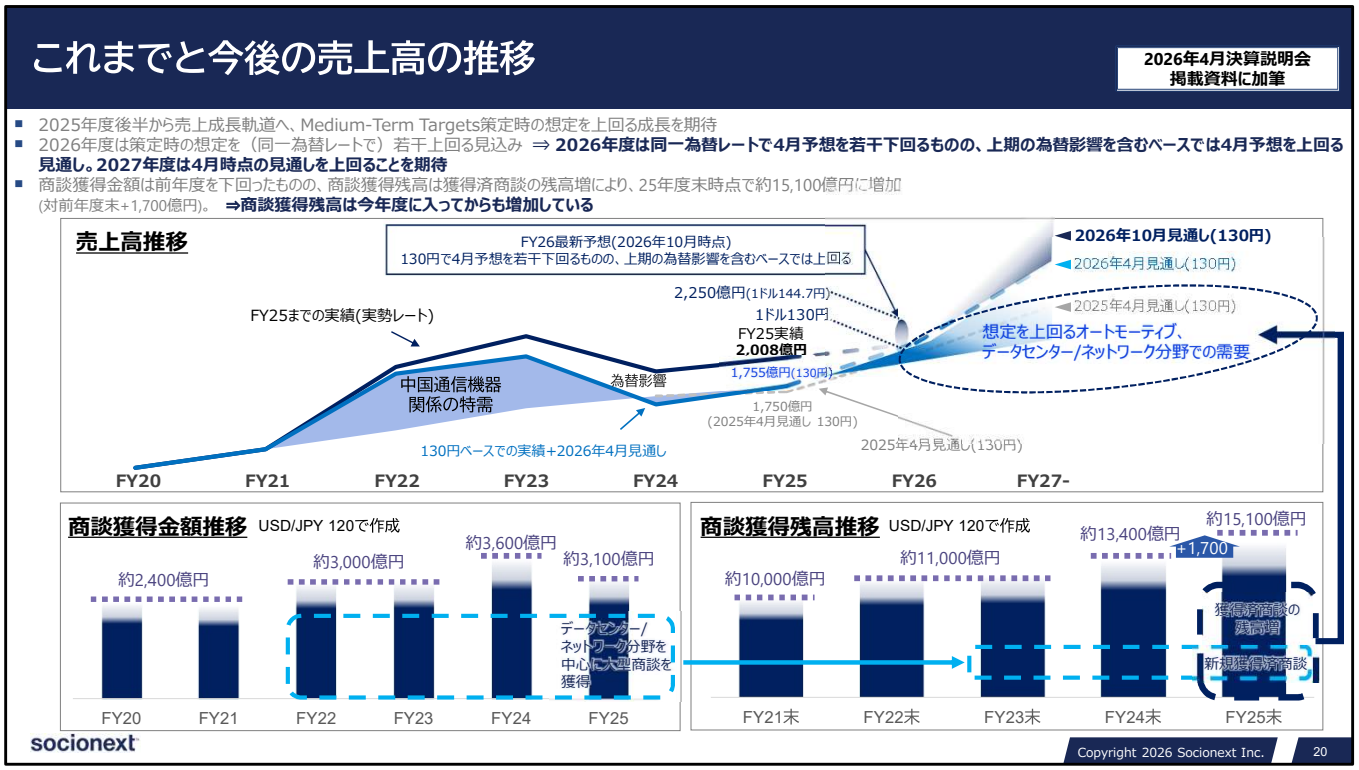
1. 本ページに記載の為替影響は概算値です。
2. 事業の実態を適切に表示するため、NRE売上および開発費の対4月予想比数値は、顧客がSoC設計に責任を負いレチクル等も所有するプロジェクトに係る金額を相殺して示しています。

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

売上高については、上期は車載向け製品などの影響や、一部のNRE売上の第3四半期へのシフトなどで、4月時点の予想に対し為替影響を除くと減少しました。下期は北米車載および北米データセンター向けの新規量産が始まり、既存商品やこれら製品の売上増が貢献し、当初予想を上回る可能性があります。
年間を通じては、NRE売上の増加はあるものの、一部の製品売上が次年度にシフトする可能性もあるため、為替影響を除く実質ベースでは当初予想を若干下回る見通しです。上期の為替影響を加えると、4月予想に対し約100億円増加し、2,250億円程度となると見ています。

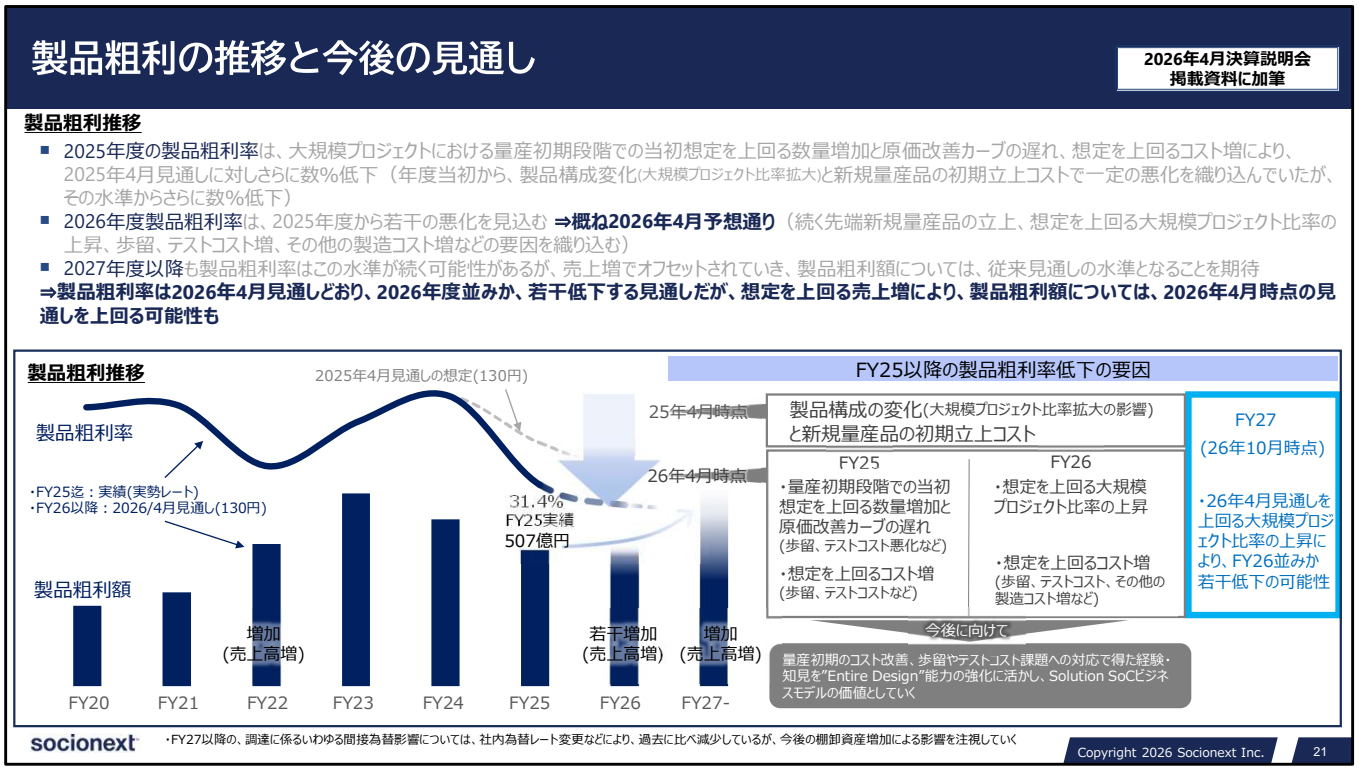
営業利益については、概ね当初見通しに沿っており、先端分野での開発費の増加、製品売上減少に伴う製品粗利益減などがあるものの、NRE売上の増加に上期の為替影響を加え、年間で155億円程度となると見ています。



このスライドは、4月の決算説明会で説明した、売上高の推移と見通しです。

2026年度の売上高は、年間平均為替レートを1ドル130円とした場合では、4月時点の予想を若干下回るものの、上期の為替影響を含むベース（年間平均144.7円）では、4月時点の予想を上回る2,250億円程度になると予想しています。

2027年度の売上高については、これまでのそして今後の新規量産品等の売上が想定を上回り、4月時点の見通しを上回る水準となる可能性があると見ています。

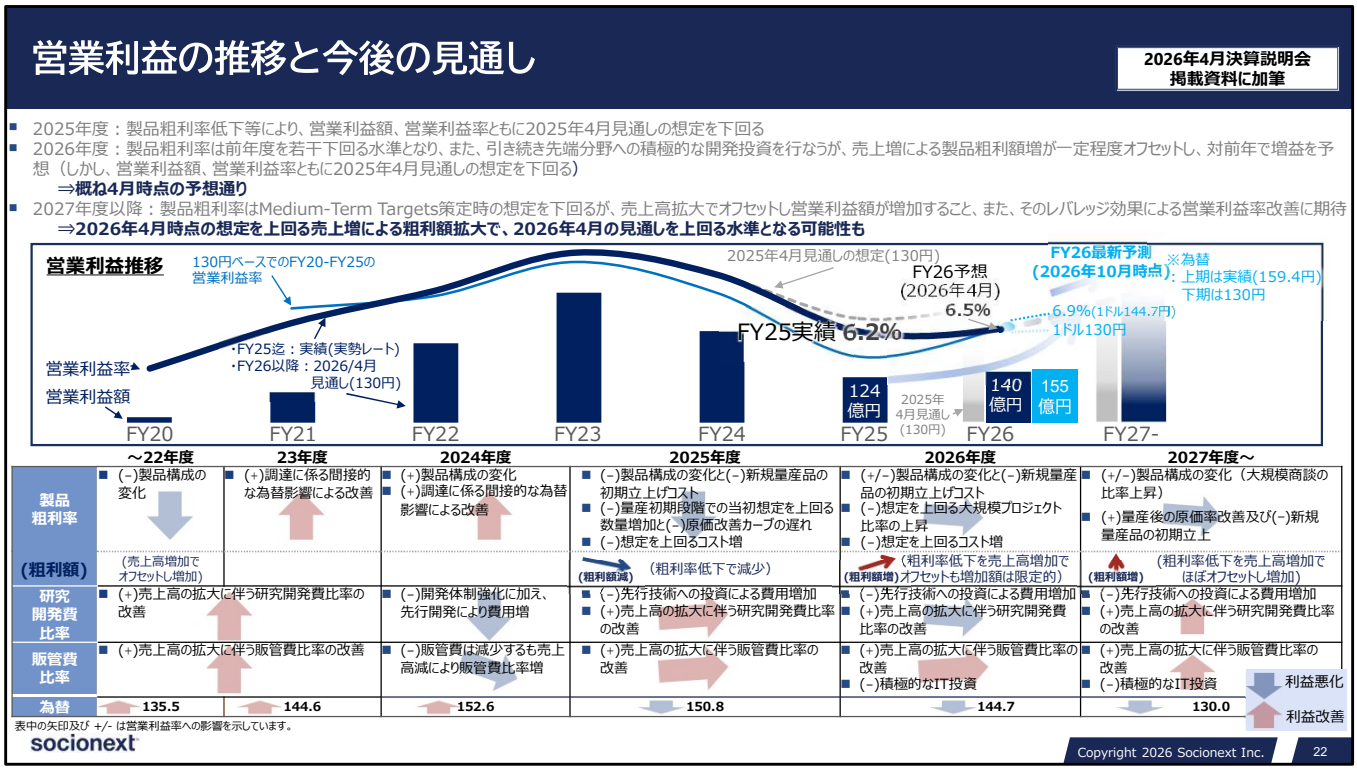


このスライドは、製品粗利の推移と今後の見通しを示しています。

4月の決算説明会で報告した通り、大規模プロジェクトの売上高比率の拡大などにより、製品粗利率は2025年度以降、それまでの水準に比べて低下しています。

2026年度の製品粗利率については、4月時点の予想通り、前年度に対し若干の低下を見込んでいます。
製品粗利額については、為替の影響を除いたベースでは製品売上の減少の影響で4月時点の予想を下回りますが、上期の為替影響を含めると4月時点の予想と同水準になると見ています。

2027年度以降については、製品粗利率は、4月時点の見通しどおり、前年度並みか、少し低下する可能性がありますが、想定を上回る売上増により、製品粗利額では4月時点の見通しを上回る可能性もあると見ています。



このスライドは、営業利益の推移を示しています。

2026年度については、4月の決算説明会で報告した通り、製品粗利率が2025年度を若干下回る水準となる見通しです。また、引き続き積極的な先行開発を行なっていきます。製品粗利額については、売上増が製品粗利率の低下を一定程度オフセットし、前年度から増加する見通しです。
営業利益については、売上高の変動による四半期毎の変化はありますが、年間を通じては、概ね4月時点の予想通りになると予想しています。

2027年度以降の営業利益については、製品粗利率はこの水準が続くと見ていますが、想定を上回る売上増により製品粗利額が拡大し、4月時点の見通しを上回る可能性もあると期待しています。

市場トレンドと2026年度業績予想の背景及び2027年度以降の見通し

市場トレンドと商談獲得

オートモーティブ

- AD/ADASやゾーンアーキテクチャへの移行が進み、AIの活用による高性能コンピューティング需要が拡大
- 電動化・Intelligent化に伴い、安全性・省電力性を両立するSolution SoCへの需要が高まる
- 自動車設計品質、機能安全(FuSa)、アーキテクチャ提案力を強みに、次世代AD/ADAS・ゾーンコンピューティング向け案件獲得を目指す
- 新興OEMに加え、既存大手OEM向け商談拡大に期待

データセンター/ネットワーク

- 生成AIに加え、エージェンティックAI・推論市場の拡大によりAIインフラ投資が継続的に拡大
- AIインフラの高性能化・大規模化に伴い、CPU/xPUやNetwork Switchなど、システム全体の性能・電力効率を最適化するカスタムSoCへの需要が高まる
- Chiplet、HBM、高速SerDes、Die-to-Die Interface、光I/O、先端パッケージなどを活用したSolution SoCビジネスモデルへの需要が高まる
- ハイパースケーラー向けCPU開発や北米で獲得したAIインフラ向け商談をテコに、商談獲得を進める

インダストリアル/スマートデバイス（Physical AI）

- DSCでの強固な事業基盤に加え、多様なIPの統合や高度な設計対応が求められるインダストリアル分野でSolution SoC商談を展開
- エージェンティックAI・Physical AIの進展により、Autonomy / Intelligenceが進む産業機器・エッジデバイス向けSoC需要の拡大を期待
- 多様なIP・CPU統合、低消費電力、高信頼性が求められる成長市場において、Solution SoCビジネスモデルが優位性を発揮

2026年度予想

売上高は為替を除くベースで2026年4月時点の予想(当初予想)を若干下回るが、上期の為替影響を含むベースでは当初予想を上回る見通し
営業利益は概ね当初予想通りの見通し

■ **製品売上**
- 2025年度第2四半期からの中国車載向け新規量産品が、当初予想に対し減少するものの、年間で販売に寄与
- 下期より量産の始まる北米車載・北米データセンター向け製品等の売上が当初予想を上回る
- 年間では、当初予想を下回る

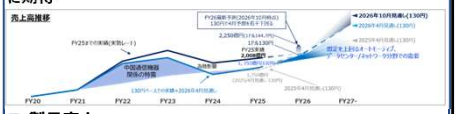
■ **NRE売上**
- 獲得済商談の開発進捗に伴うNRE売上に加え、注力分野での新規商談獲得に取り組み、前年度からの増加を予想。当初予想も上回る

■ **営業利益**
- 製品粗利率：製品構成の変化(大規模プロジェクト比率拡大の影響)などから、前年度に対し若干の低下を見込む(当初予想どおり)
- 研究開発費比率：積極的な先行投資を継続するため、前年度の水準を若干上回る見通し
- 販売費及び一般管理費比率：売上高増加に伴うレバレッジ効果により、前年度の水準から低下する見通し
- 営業利益：売上増が製品粗利率の悪化を一定程度オフセットし、対前年での改善を予想。概ね当初予想通りの見通し

<為替レート前提>
- 為替レート　：上期平均1ドル＝159.4円、下期想定 1ドル＝130円
- 為替感応度：4月時点の予想での年間為替感応度は、ドルに対して1円の変動で、売上高約10億円/営業利益約2.5億円と想定していたものの、上期に売上高が少なく、下期に多くなるため、上期の為替感応度は4月時点の想定を下回り、下期は4月時点の想定を上回る見通し

2027年度以降（見通し）

売上高はMedium-Term Targets策定時の想定および、2026年4月時点の見通しを上回る成長を期待
営業利益は、製品粗利率が策定時の想定を下回っているが、想定以上の売上高拡大がこれをオフセットし営業利益額が増加していくこと、また、そのレバレッジ効果による営業利益率の改善に期待



■ **製品売上**
- 車載向け、データセンター向けを含む複数の大型製品のMedium-Term Targets策定時の想定を上回る販売増により、継続的な成長を見込む（これまでのそしてこれからの新規量産品などが想定を上回る可能性）

■ **NRE売上**
- 継続的に緩やかな増加を見込む

■ **営業利益**
- 製品粗利率はMedium-Term Targets策定時の想定を下回るものの、想定以上の売上高拡大がこれをオフセットし、営業利益額が増加していくこと、また、そのレバレッジ効果による営業利益率の改善に期待

■ **更なる成長に向けた先端技術分野への積極的な投資**
■ **成長重視の経営を加速**

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

このスライドは、市場トレンドと業績予想の背景及び2027年度以降の見通しを示しています。

socionext
The Solution SoC Company

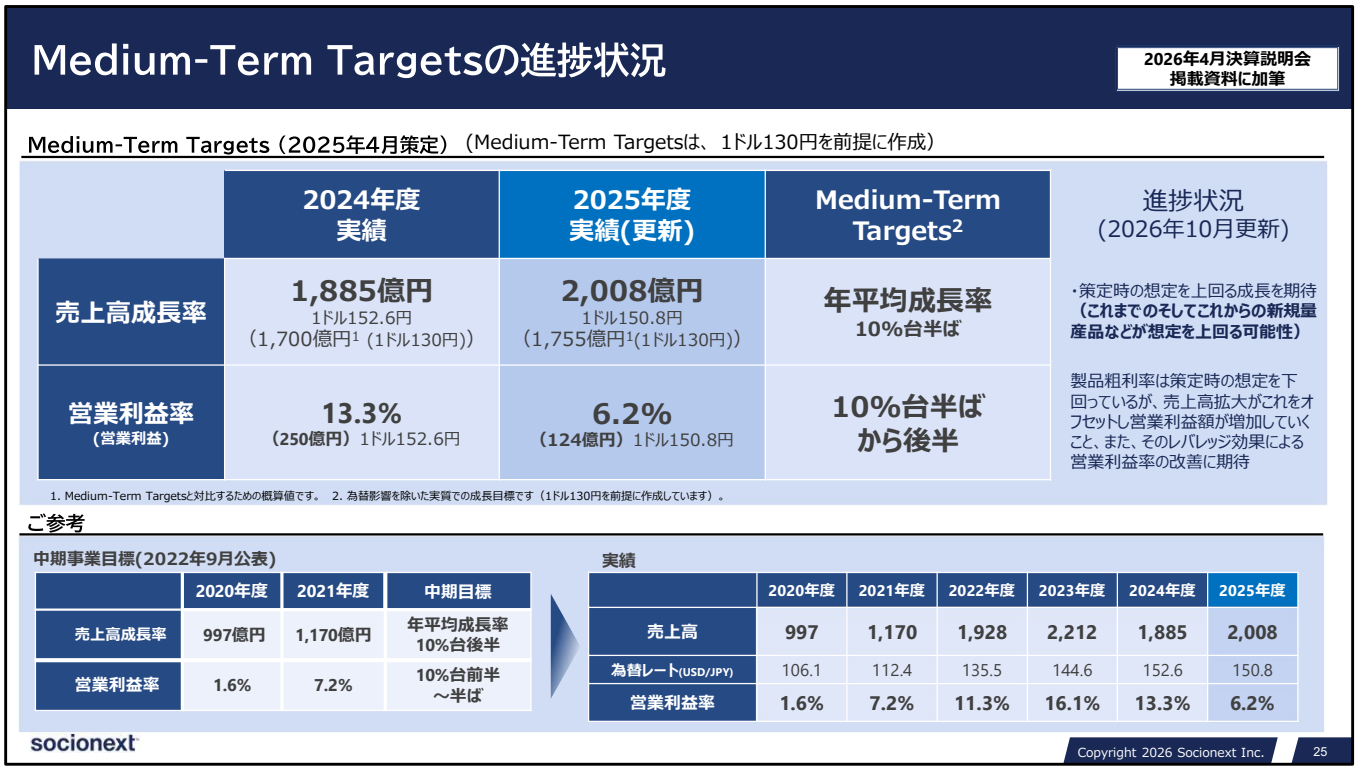
2026年度第2四半期連結決算

- 2026年度第2四半期 連結決算概要
- 2026年度通期 予想

今後の更なる成長に向けて



24



このスライドは、2025年4月の2024年度通期決算説明会で報告したMedium-Term Targetsとその進捗を示しています。

売上高については、これまでのそしてこれからの新規量産品などが想定を上回る可能性があります。

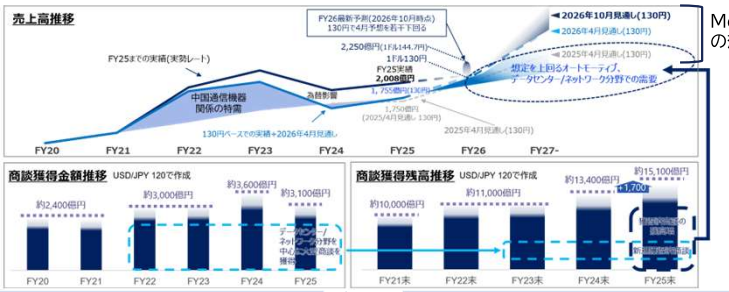
営業利益率については、製品粗利率が策定時の想定を下回っていますが、売上高拡大がこれをオフセットし、営業利益額が増加していくこと、また、そのレバレッジ効果により営業利益率が改善していくものと期待しています。

尚、Medium-Term Targetsは1ドル130円を前提に作成しています。

今後の成長経路

2026年4月決算説明会
掲載資料に加筆

- 「第一の変革」(ビジネスモデルおよび事業分野の転換)により達成された商談獲得残高を基盤に、継続的な売上成長(これまでの想定を上回る売上成長に期待)と製品粗利・営業利益の拡大を目指す
- これまでの先端分野での大型開発の実績を通じて、開発体制・技術力の強化が進む
  今後さらに「第二の変革」で、開発体制の再編強化、先端技術への投資、経営体制の強化/グローバル化に取り組み、商談獲得の拡大、そしてさらなる成長と発展へ



Medium-Term Targets 策定時
の想定を上回る成長を期待

更なる成長に向けた成長戦略(第二の変革)

- ✓ 開発体制の再編強化
- ✓ 先端技術への投資
- ✓ 経営体制の強化、グローバル化

「第一の成長」に繋がった「第一の変革」(ビジネスモデル・事業分野転換)に続く「第二の変革」に取り組む

継続的な売上成長

及び

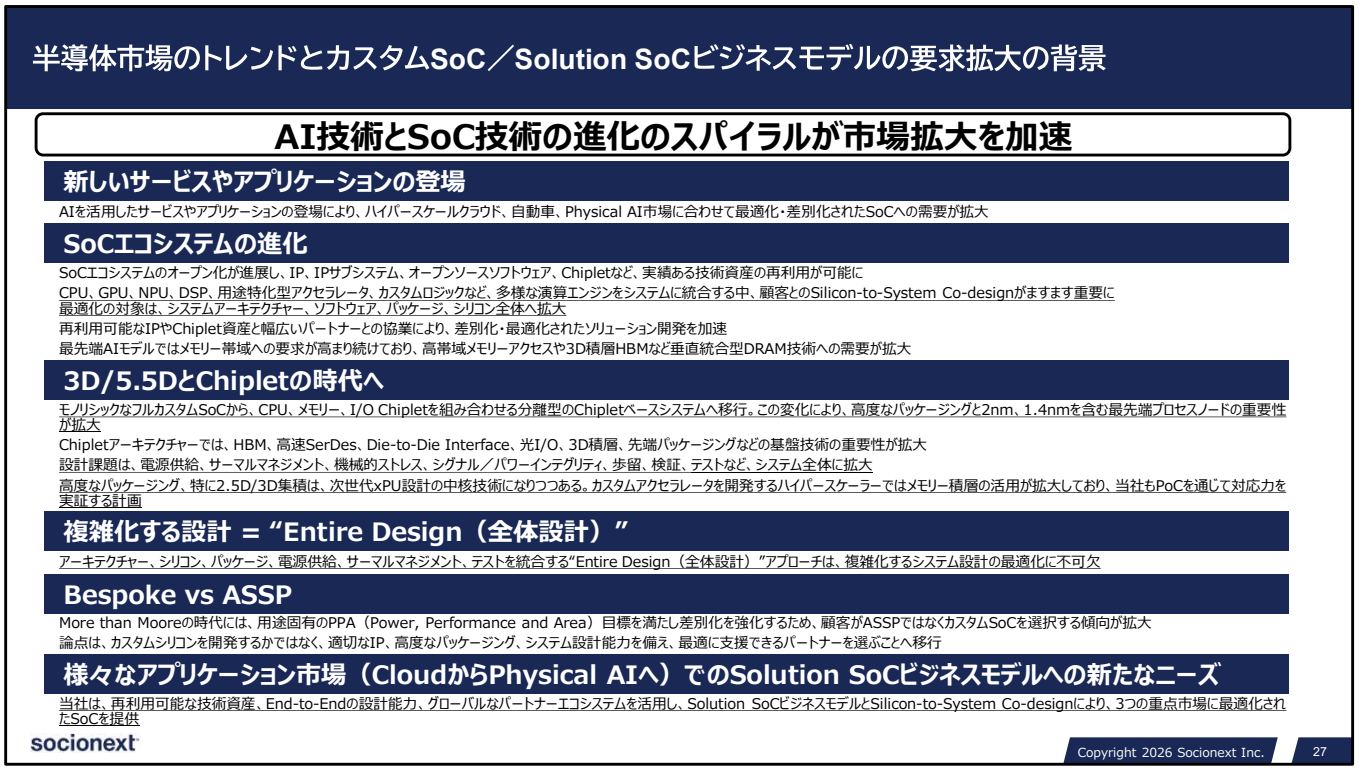
粗利額・営業利益額の拡大
営業利益率の改善

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

このスライドは、4月の決算説明会で示した、今後の成長経路です。

「第一の変革」でのビジネスモデルや事業分野の転換による成果を基に、今後さらに「第二の変革」で、開発体制の再編強化、先端技術への投資、経営体制の強化/グローバル化に取り組み、商談獲得の拡大、そしてさらなる成長と発展を目指したいと思います。



このスライドは、半導体市場のトレンドと、カスタムSoCおよびSolution SoCビジネスモデルへの要求が拡大している背景を示しています。
AIの活用拡大、SoCエコシステムの進化、Chipletや先端パッケージの採用、設計対象のシステム全体への広がりにより、SoC開発は一層複雑化しています。
こうした変化を背景に、Entire DesignとSilicon-to-System Co-designによって、重点市場に最適化したSoCを提供する重要性が高まっています。

今後の成長に向けた取り組み　先端技術への投資（積極的な先行開発投資）

AIを活用した新たなサービスやアプリケーションの登場と幅広い分野に広がる半導体エコシステムの進化

→ 革新的な顧客は、単なる設計サービスの提供ではなく、Silicon-to-System Co-designをリードできるパートナーを求めている

→ 当社は、Entire Design（全体設計）の能力とSilicon-to-System Architecture Platformを強化するため、差別化技術、設計プラットフォーム、実行能力への投資を継続

<市場動向と要求>

新しいサービスとアプリケーション/重点3市場

- テクノロジーの進化とAI活用の拡大により、自動車、AIデータセンター、Physical AI用途に最適化されたSoCへの需要が拡大
- 当社は、高付加価値なカスタムSoC案件を選択的に追求し、これら重点市場でのデザインウィン拡大を目指す

設計の複雑さ / Entire Design

- システムの複雑化に伴い、シリコン、パッケージ、電源、サーマルマネジメント、光インターコネクト、メカ設計、テスト、信頼性解析を統合した設計がますます重要に
- 当社は、これらの要素を総合的に最適化し、顧客仕様により効果的に応えるため、Entire Design（全体設計）の能力を強化

<「Entire Design（全体設計）」や「コンプリートサービス」を実現するための先行投資>

エコシステム企業・革新的な顧客とのパートナーシップ

- 当社は、再利用可能な技術資産とグローバルなパートナーエコシステムを活用し、顧客とのSilicon-to-System Co-designを推進
- ファウンドリやOSATに加え、光インターコネクト、電源、ソフトウェア、ODM/EMSのパートナーへエコシステムを拡大し、3つの重点市場における複数世代の共同開発プログラムを支援

先端テクノロジーと再利用可能な技術基盤

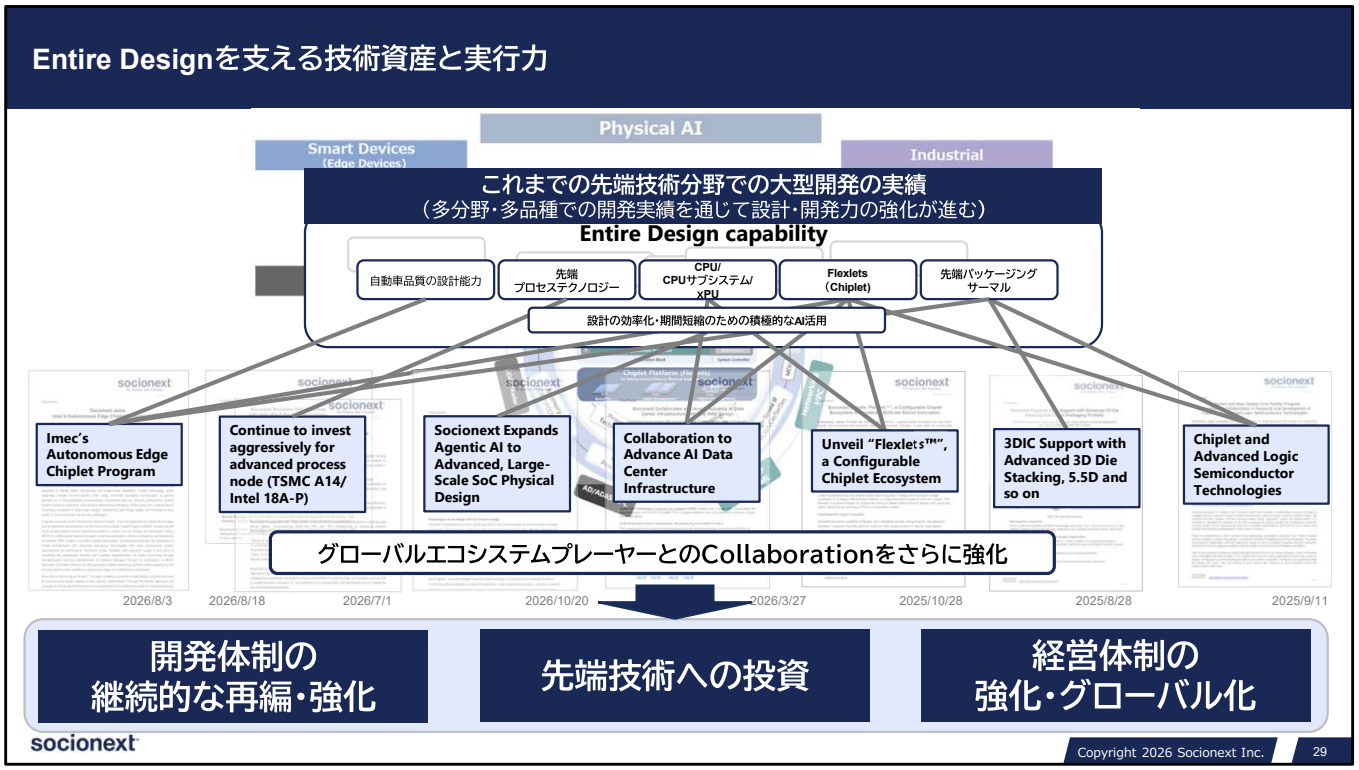
2nm以細のプロセスノード、Chiplet（3D/5.5D）、先端パッケージ
- Silicon-to-System Architecture Platformを構築し、システムレベルで顧客要求に応えるための共通技術基盤を強化
- 2nm以細、Chiplet、3D Hybrid Bonding、CPO/NPO、光I/O、IVRなど、先端技術の先行開発・評価を推進
- Flexletsにより再利用可能なChipletプラットフォームを構築
- HBM、Die-to-Die Interfaceなどの先端技術への対応力を強化

SoC設計へのAI活用／次世代設計プラットフォーム
- 仕様解釈、設計レビュー、RTL／検証コード生成にAIを適用し、生産性を向上
- AIエージェントを活用して物理設計の実行・解析・最適化を自動化し、設計収束を加速、PPAと品質を向上するとともに、熟練者のノウハウをチーム横断で展開
- Multi-Physics解析を標準設計フローに統合し、PPAおよび開発効率を向上

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

このスライドは、今後の成長に向けた先端技術への投資と取り組みを示しています。
重点3市場での商談獲得拡大に向けて、Entire Design能力とSilicon-to-System Architecture Platformを強化します。
あわせて、先端プロセス、Chiplet、先端パッケージ、AIを活用した設計プラットフォーム、およびグローバルなパートナーエコシステムへの投資を進めます。



このスライドは、Entire Designを支える当社の技術資産と実行力の全体像を示しています。
多分野・多品種における先端SoC開発の実績を通じて、先端プロセス、CPU／xPU、Chiplet、先端パッケージなどの設計・開発力を強化してきました。
今後も、グローバルエコシステムプレーヤーとの連携、先端技術への投資、AIを活用した設計効率化を進めていきます。

先端技術分野における最近の活動

先端プロセス、Chipletなどの先端技術開発について発表

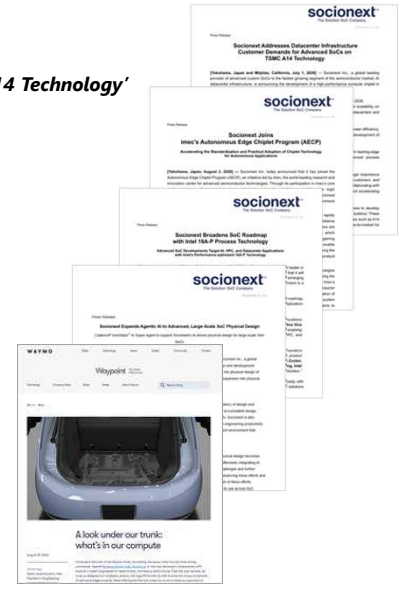
'Socionext Addresses Datacenter Infrastructure Customer Demands for Advanced SoCs on TSMC A14 Technology'
(July 1, 2026)

'Socionext Joins imec's Autonomous Edge Chiplet Program (AECP)'
(August 3, 2026)

'Socionext Broadens SoC Roadmap with Intel 18A-P Process Technology'
(August 18, 2026)

'Socionext Expands Agentic AI to Advanced, Large-Scale SoC Physical Design'
Joint press release with Cadence
(October 20, 2026)

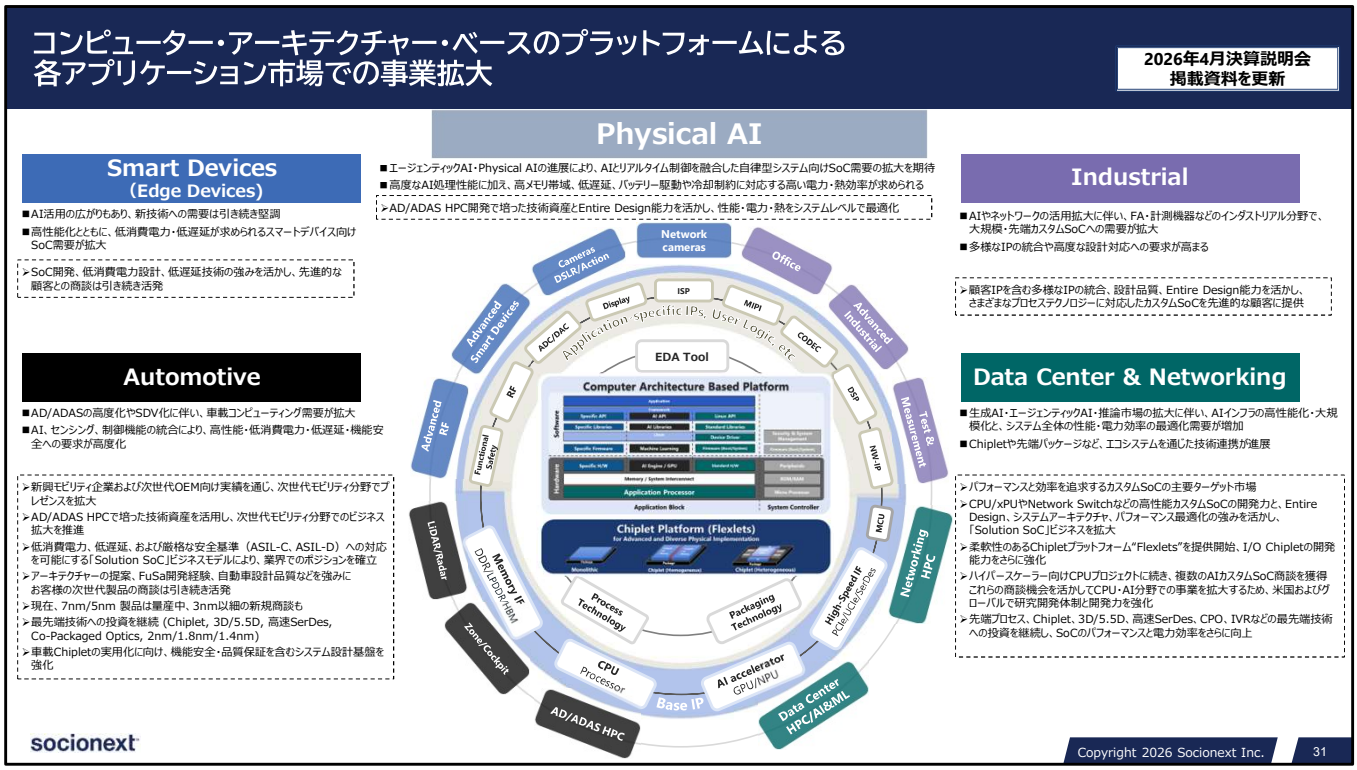
'A look under our trunk: what's in our compute'
Waymo社ブログで、カスタムシリコンによるPhysical AIの実現に向けた当社との協業について言及
(August 20, 2026)



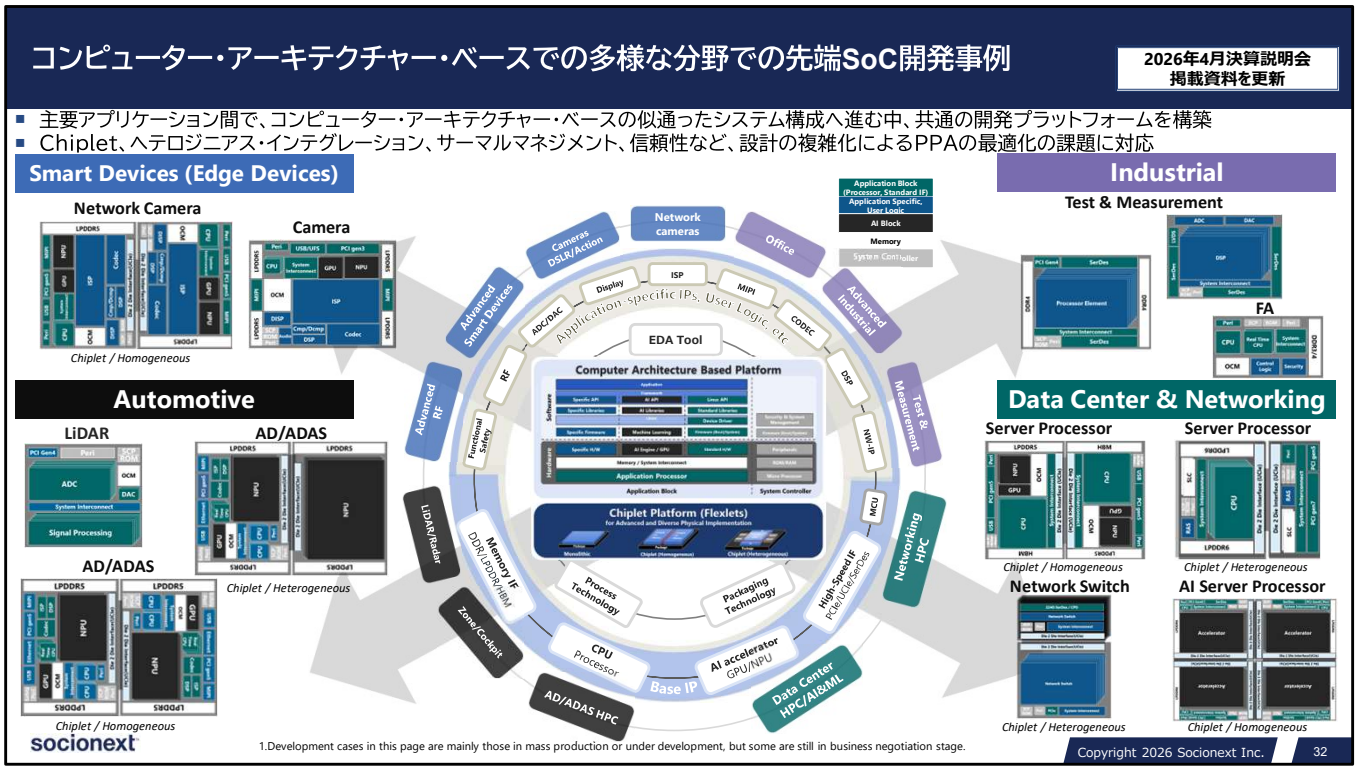
socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

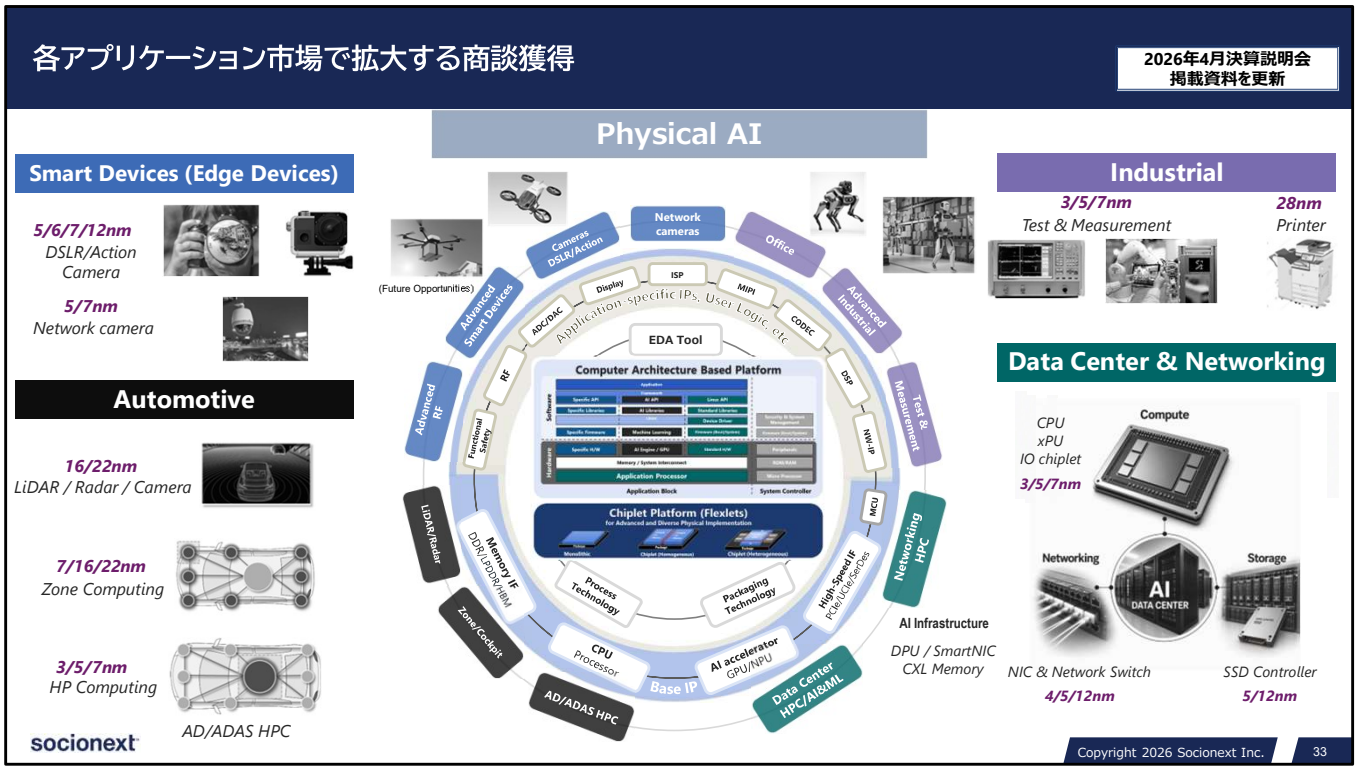
このスライドは、先端プロセス、Chiplet、AIを活用したSoC設計など、先端技術分野における最近の活動を示しています。
TSMC A14、Intel 18A-P、imecのAutonomous Edge Chiplet Programへの参画、Waymoとの協業、および大規模SoC物理設計へのエージェンティックAIの活用について紹介しています。



このスライドは、コンピューターアーキテクチャーベースのプラットフォームを活用した、各アプリケーション市場での事業展開を示しています。
Smart Devices、Industrial、Automotive、Data Center & Networking、Physical AIの各市場について、市場動向と当社の強み、事業拡大の方向性を整理しています。
共通する技術資産とEntire Design能力を活用し、各市場の要求に最適化したカスタムSoCを提供していきます。



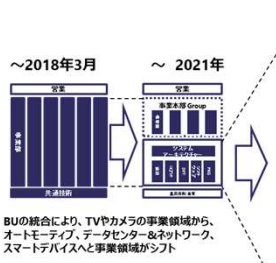
このスライドは、コンピューターアーキテクチャーベースのプラットフォームを活用した、各市場における先端SoCの開発事例を示しています。
主要アプリケーションで共通化が進むシステム構成をベースに、Chiplet、ヘテロジニアス・インテグレーション、サーマルマネジメント、信頼性などの設計課題に対応しています。



このスライドは、各アプリケーション市場における主な商談獲得の状況を示しています。
Smart Devices、Industrial、Automotive、Data Center & Networkingの各分野で、先端プロセスから成熟プロセスまで幅広いテクノロジーを活用した商談を獲得しています。
Physical AIについては、今後の商談機会として位置付けています。

開発体制の再編・強化
成長市場でのDesign Win拡大を支えるグローバル開発体制への進化

2026年4月決算説明会
掲載資料を更新



2022年 ～

Leading Global R&D Team

システムアーキテクチャー
ソフトウェア, IP,
Chiplet, パッケージ
先端技術

プロジェクトマネジメント

開発リソース

- 「リーディング・グローバルR&Dチーム」の設置と強化（2022年以降）
- 日本の卓越したエンジニアリング力とシリコンバレーなどで培われた高度なイノベーション力とアーキテクチャ設計能力を融合

2025年4月～
Entire Designを担うグローバルリーディンググループを継続的に強化

グローバル組織体制の抜本的な改革

グローバル共同リード体制の構築
- 真のグローバル体制を構築（開発部門のグローバルco-lead体制）

"Entire Design"能力の強化
- 大規模最先端開発プロジェクトを複数同時に進めることができる能力を強化
- 先端技術への積極的な投資
- 幅広い機能をカバーする高いスキルを持つエンジニアチームを配置(SoCアーキテクチャー、CPUアーキテクチャー、Chiplet、RF、ミックスドシグナル、ソフトウェア、検証、テスト、パッケージ、サーマルマネジメントなど)
- Heterogeneous Integrationおよび複雑化する歩留・品質課題に対応するチームを設置

グローバルな競争力のある開発体制の構築

グローバル開発体制の構築
- 高いスキルを持つエンジニアをグローバルに採用
- 日本とその他地域（主に米国）のエンジニアチームを統合

グローバルプロジェクトマネジメント体制を強化
- 海外地域会社のプロジェクトマネージャーと日本の連携強化

グローバルなリソースマネジメント体制の構築

リソースマネジメント (アウトソーシング含む)
- 米国、中国、欧州などとともに、他地域も社内外リソースを運用・強化

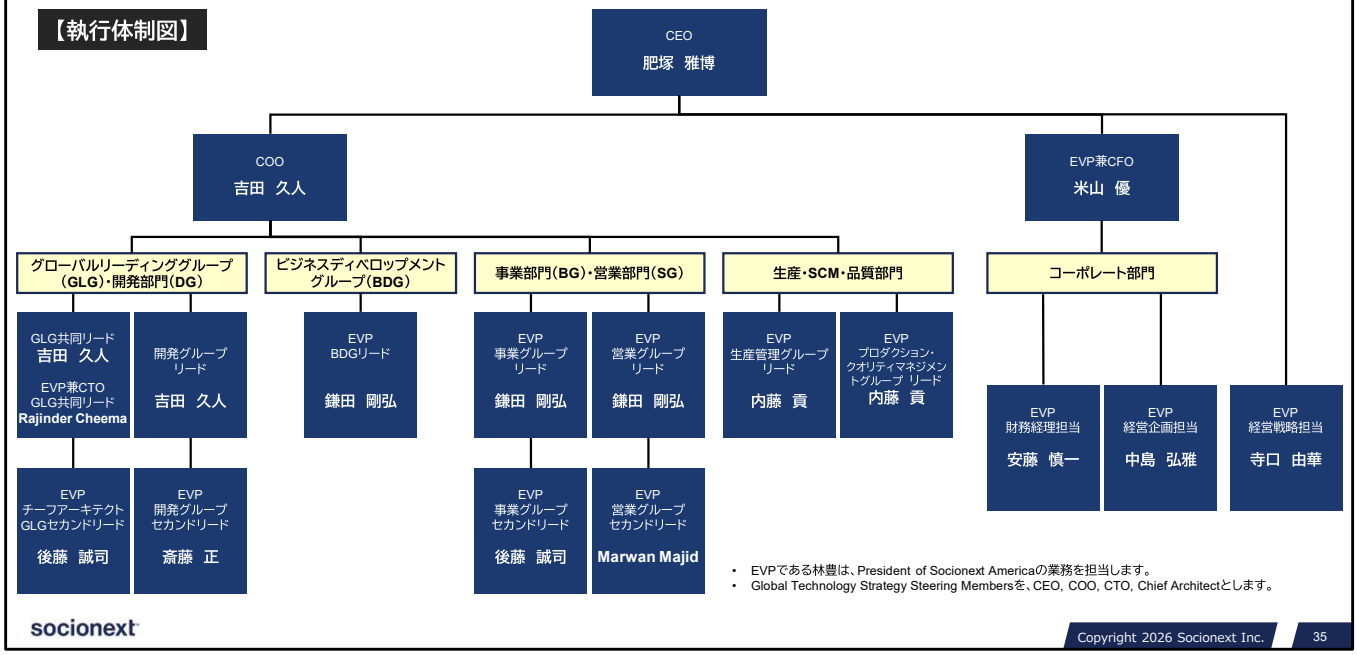
Solution SoCビジネスモデルに沿った複数領域での
複数同時（並行）開発を可能とする体制の構築・強化

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

このスライドは、成長市場でのDesign Win拡大を支えるグローバル開発体制の再編・強化について示しています。
グローバル共同リード体制、プロジェクトマネジメント、リソースマネジメントを強化するとともに、大規模・先端プロジェクトを複数並行して遂行できるEntire Design能力を強化しています。
また、Heterogeneous Integrationや複雑化する歩留・品質課題に対応する体制を整備しています。

経営体制の強化・グローバル化
第二の変革を推進するグローバル経営基盤



このスライドは、第二の変革を推進する現在のグローバル経営体制を示しています。
グローバルリーディンググループ、開発、事業、営業、生産・品質、コーポレートの各部門における執行体制と担当を示しています。
技術戦略、開発、事業執行、コーポレート機能を連携させ、今後の成長を支える経営基盤を強化しています。

socionext
The Solution SoC Company

Appendix:

Overview

- 連結損益計算書・連結貸借対照表
- 売上高の内訳 四半期別
- ソシオネクストのビジネスモデル



連結損益計算書

（単位：億円）	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 1H
売上高	997	1,170	1,928	2,212	1,885	2,008	994
前年同期比増減率	*-3.7%*	*+17.3%*	*+64.7%*	*+14.8%*	*-14.8%*	*+6.5%*	*+14.0%*
製品売上	*731*	846	1,568	1,829	1,466	1,618	776
NRE 売上	*230*	281	349	376	410	383	218
その他売上	*36*	43	11	8	9	7	0
売上原価	432	498	1,039	1,112	846	1,111	542
売上総利益	565	673	888	1,100	1,039	898	452
売上総利益率	*56.7%*	*57.5%*	*46.1%*	*49.7%*	*55.1%*	*44.7%*	*45.5%*
製品粗利益率	*40.9%*	*41.2%*	*33.7%*	*39.2%*	*42.3%*	*31.4%*	*30.1%*
研究開発費	392	432	493	533	598	585	338
販売費及び一般管理費 (研究開発費除く)	158	156	178	212	191	189	97
営業利益	16	85	217	355	250	124	17
営業利益率	*1.6%*	*7.2%*	*11.3%*	*16.1%*	*13.3%*	*6.2%*	*1.7%*
営業外損益	4	6	17	16	1	-6	6
経常利益	20	91	234	371	251	118	22
特別利益	0	0	0	0	18	0	0
特別損失	0	0	0	0	15	0	0
税金等調整前純利益	20	91	234	371	254	118	22
法人税等合計	5	16	37	110	58	30	7
当期純利益	15	75	198	261	196	87	15
純利益率	*1.5%*	*6.4%*	*10.3%*	*11.8%*	*10.4%*	*4.3%*	*1.5%*
為替レート(USD/JPY)	106.1	112.4	135.5	144.6	152.6	150.8	159.4

Copyright 2026 Socionext Inc.

連結貸借対照表

(単位：億円)	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 1H
資産							
現金及び預金[1]	427	463	451	697	728	445	228
売掛金	286	251	408	353	316	369	457
棚卸資産[2]	67	164	477	255	170	311	446
その他	26	29	224	84	48	103	109
流動資産合計	806	906	1,561	1,389	1,263	1,228	1,239
有形固定資産	89	116	172	218	223	239	325
Reticle	37	47	56	81	97	109	171
その他有形固定資産	52	69	116	137	126	130	154
無形固定資産	116	122	130	185	144	151	173
繰延税金資産	23	31	69	67	61	46	42
その他	9	8	8	9	12	12	12
固定資産合計	237	278	379	479	440	448	552
資産合計	1,042	1,184	1,939	1,868	1,703	1,676	1,791

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度 1H
負債及び純資産							
買掛金	120	166	234	158	119	158	189
短期借入金	0	0	0	0	0	0	81
未払金･未払費用	74	69	303	182	120	96	86
その他	19	39	286	191	73	71	109
流動負債合計	213	274	823	531	313	325	465
固定負債合計	13	14	17	27	20	20	22
負債合計	226	288	841	558	333	346	488
資本金	302	302	302	327	330	330	330
資本剰余金	302	302	302	327	330	339	340
利益剰余金	214	289	486	636	743	741	712
自己株式	0	0	0	0	-50	-108	-105
その他	-1	3	8	20	18	27	26
純資産合計	817	896	1,099	1,310	1,370	1,331	1,303
負債純資産合計	1,042	1,184	1,939	1,868	1,703	1,676	1,791

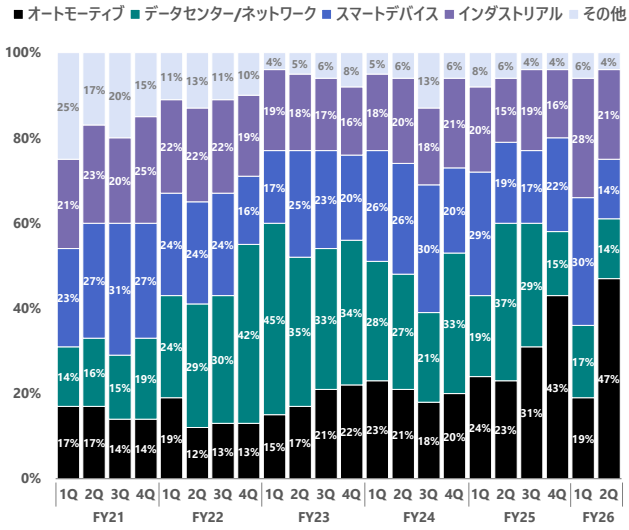
1. 現金及び預金には短期保有有価証券を含みます。
2. 棚卸資産は製品と仕掛品の合計です。

socionext

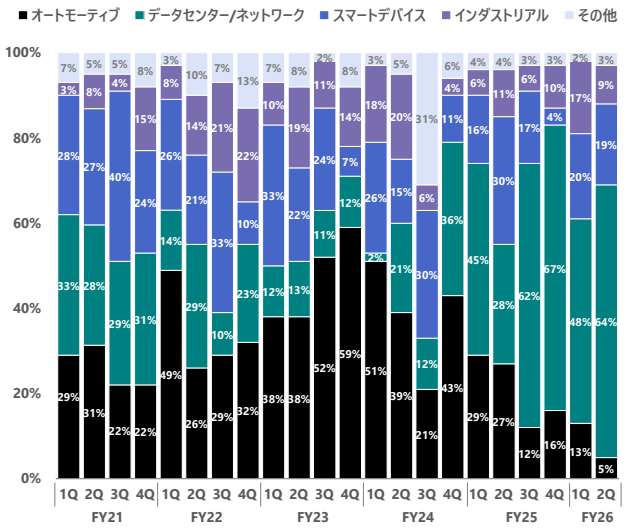
Copyright 2026 Socionext Inc.

売上の内訳（アプリケーション別）四半期別

売上高[1]



NRE売上[1]



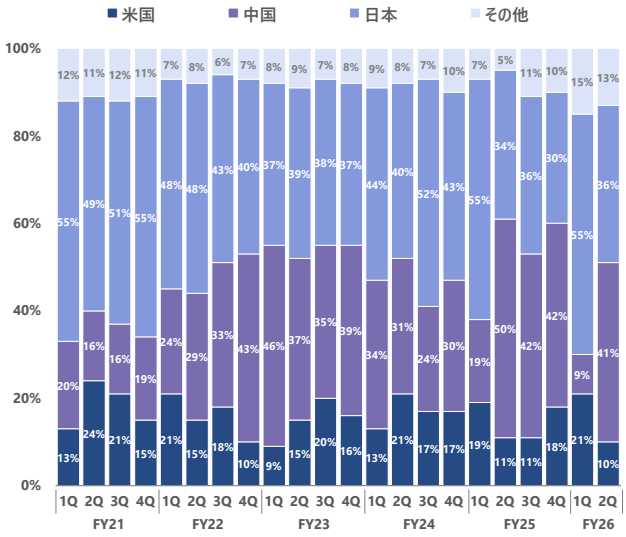
1. 四半期における比率は、個別案件の開発状況の影響を大きく受けるため、ボラティリティが高く四半期毎に大きく変動する可能性があります。

socionext

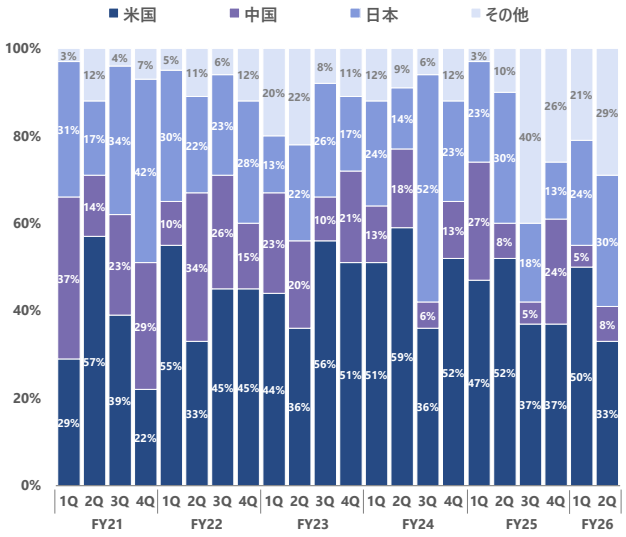
Copyright 2026 Socionext Inc.

売上の内訳（地域別）四半期別

売上高[1]



NRE売上[1]



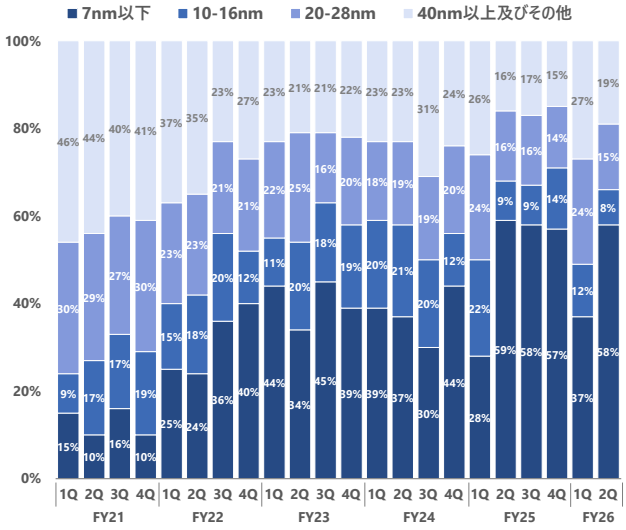
1. 四半期における比率は、個別案件の開発状況の影響を大きく受けるため、ボラティリティが高く四半期毎に大きく変動する可能性があります。

socionext

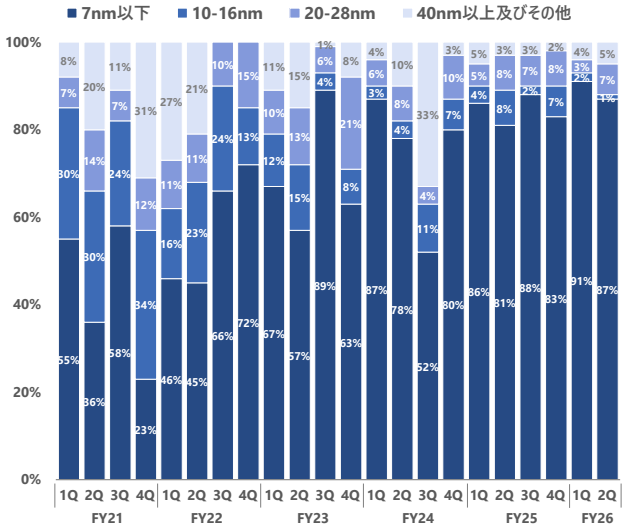
Copyright 2026 Socionext Inc.

売上の内訳（プロセスノード別）四半期別

売上高[1]



NRE売上[1]



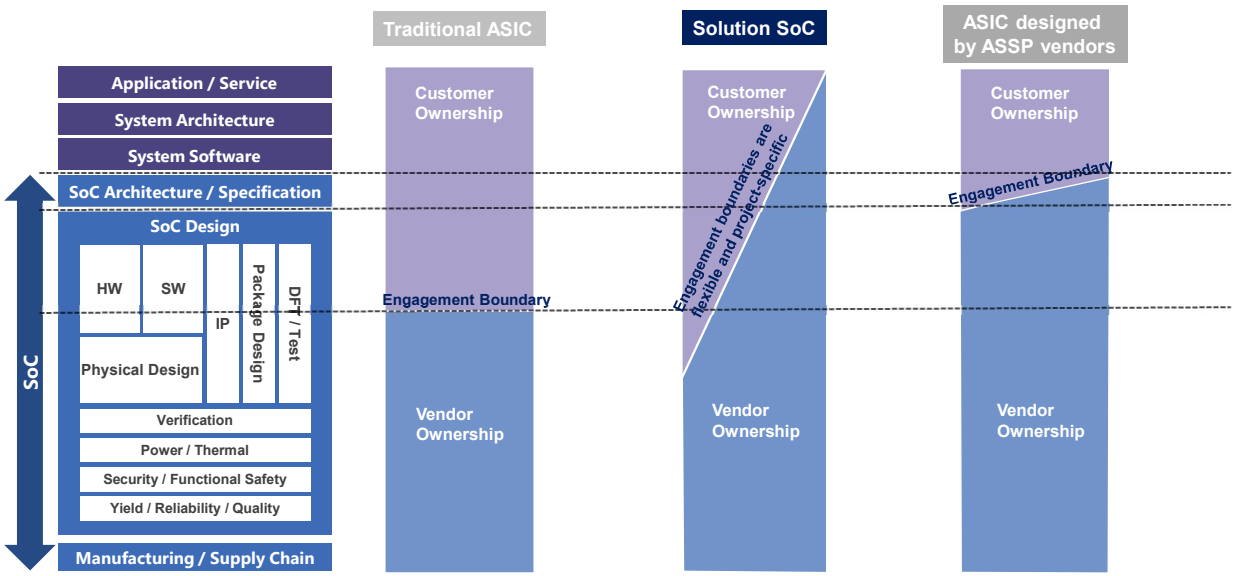
1. 四半期における比率は、個別案件の開発状況の影響を大きく受けるため、ボラティリティが高く四半期毎に大きく変動する可能性があります。

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

Evolution of System Ownership in Industry

System value creation is shifting upstream -- from implementation to architecture and system realization



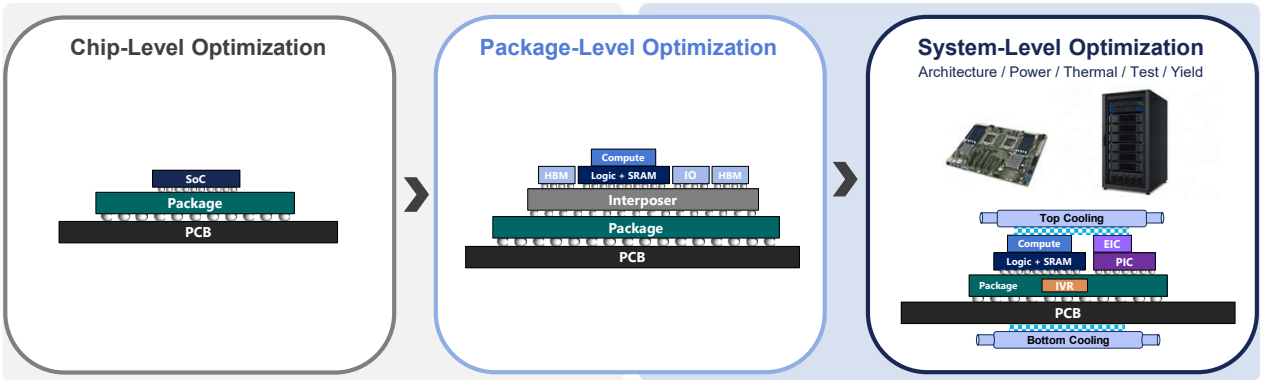
Copyright 2026 Socionext Inc.

Technology Evolution: From Chip Design to System Realization

Optimization scope is expanding from silicon to the entire system

Traditional ASIC
Optimize Silicon
RTL • Physical • Package • Test

Solution SoC
Optimize the Entire Design
Optics • IVR • Power • Thermal • Test • Yield



Design Scope: Chip + Package
Optimization: PPA + Bandwidth + Package

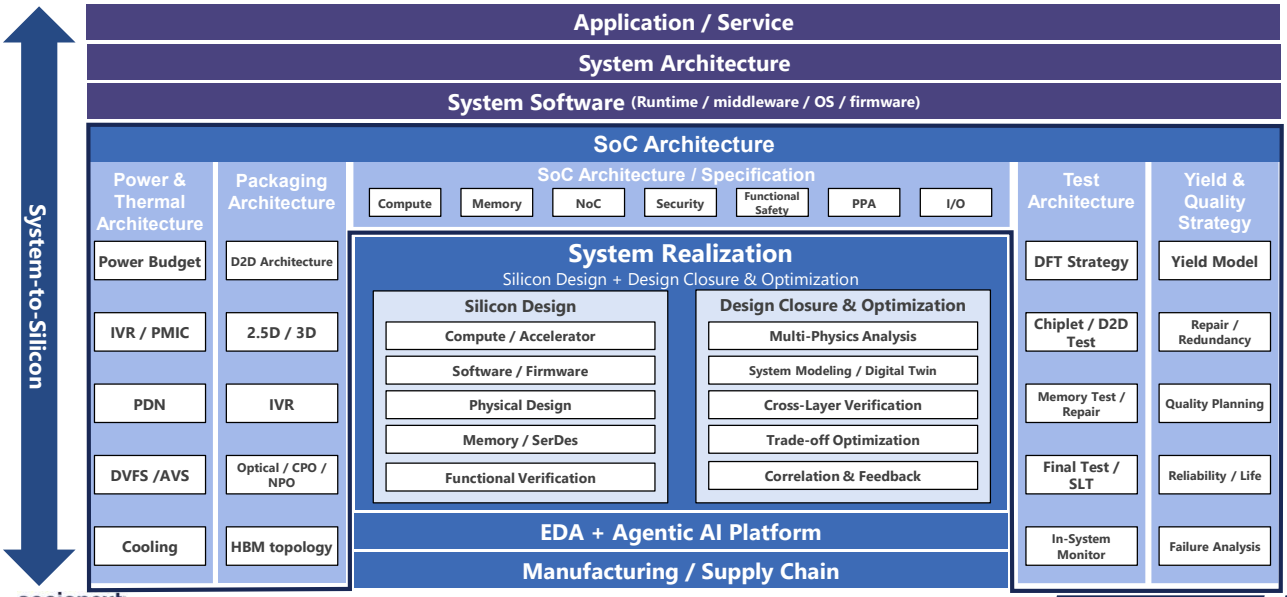
Design Scope: System-to-Silicon
Optimization: Performance + Power + Thermal + Test + Yield + Cost

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

Architecture-Driven System Realization

Power, package, test, yield and AI must be architected from the beginning

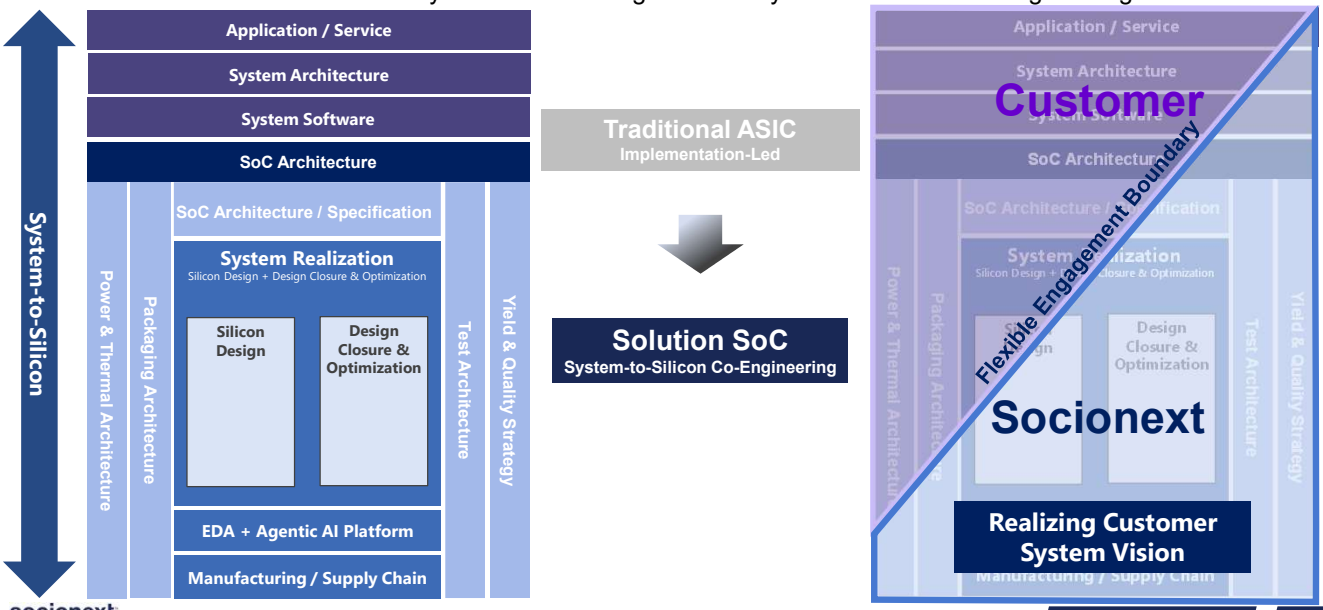


socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

Flexible System Realization Partner

Socionext realizes each customer's system vision through flexible System-to-Silicon Co-Engineering



Copyright 2026 Socionext Inc.

socionext
The Solution SoC Company

以降、2026年4月決算説明会資料より再掲

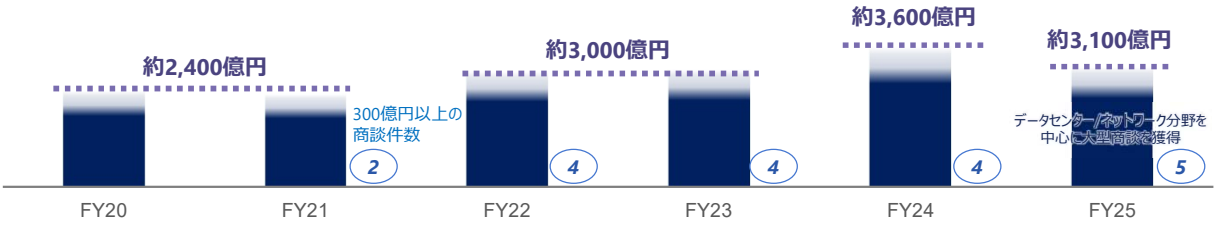


46

商談獲得金額の推移

- 2025年度の商談獲得金額は、データセンター/ネットワーク分野などで大型商談を獲得し、前年度を下回ったものの3,100億円に（商談獲得が前年度の第4四半期に集中したこと、また、2025年度は獲得済商談の端境期であったこと、商談獲得時期が来年度前半にずれ込んだことなども影響）

各年度に獲得した商談獲得金額 (LTR) (1ドル120円で作成)



商談獲得金額は、当該商談を獲得した後に生じる事後的な状況の変化を反映して更新しておりません。こうした事後的な状況の変化には、(1) 実際の売上、開発計画、販売数量、製品単価、製造キャパシティなどの要因の変動、ならびに (2) 商談獲得後の案件の中止が含まれます。獲得済みの商談について、将来、案件がキャンセルされる可能性もあります。これら商談獲得後の事後的な状況の変化による影響は、商談獲得残高に反映されます。商談獲得残高とは、特定の時点において存続している案件に係る商談獲得金額の残存額についての、当該時点における当社の見積りを表すものです。上述の (1) および (2) を含む事後的な状況の変化による影響は、商談獲得残高に反映されます。FY19からFY25までの商談獲得金額の合計について、およそ15%に相当する商談が事後的に中止となっています。これまでのところ、これらの案件のキャンセルによる影響は他の獲得済商談における単価上昇や生産数量の増加などの影響で一部オフセットされ、結果的に、商談獲得金額の合計に対する影響は数%の減少となっています。詳細については、本資料3ページをご参照ください。

socionext

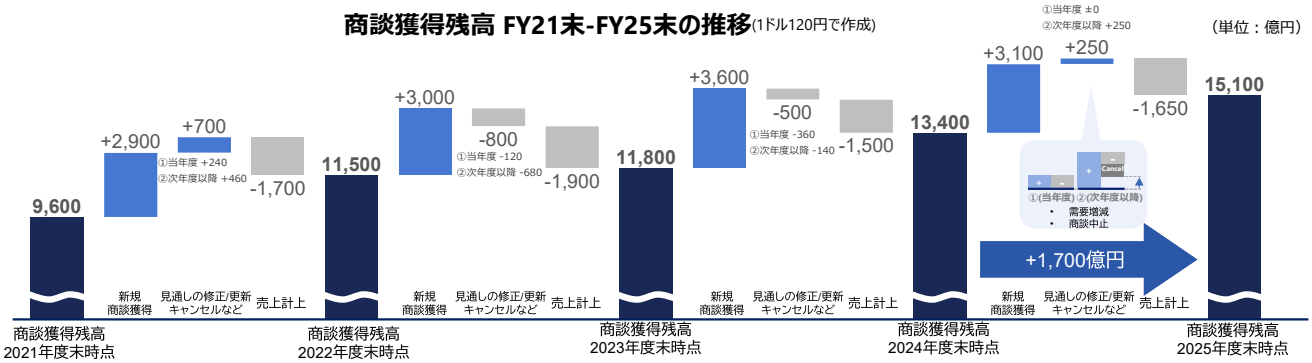
Copyright 2026 Socionext Inc.

商談獲得残高の変動内訳

- FY25の新規商談獲得が前年を下回り、また、一部商談のキャンセルがあったものの、獲得済商談の残高の増加により、商談獲得残高は+1,700億円増加し、約1兆5,100億円(1ドル120円で計算)に
- FY25末残高の約60%が、今後4年間に売上計上され、今後数年の売上増につながると期待

商談獲得残高 FY21末-FY25末の推移(1ドル120円で作成)

(単位：億円)



商談獲得金額は、当該商談を獲得した後に生じる事後的な状況の変化を反映して更新しておりません。こうした事後的な状況の変化には、(1) 実際の売上、開発計画、販売数量、製品単価、製造キャパシティなどの要因の変動、ならびに (2) 商談獲得後の案件の中止が含まれます。獲得済みの商談について、将来、案件がキャンセルされる可能性もあります。これら商談獲得後の事後的な状況の変化による影響は、商談獲得残高に反映されます。商談獲得残高とは、特定の時点において存続している案件に係る商談獲得金額の残存額についての、当該時点における当社の見積りを表すものです。上述の (1) および (2) を含む事後的な状況の変化による影響は、商談獲得残高に反映されます。FY19からFY25までの商談獲得金額の合計について、およそ15%に相当する商談が事後的に中止となっています。これまでのところ、これらの案件のキャンセルによる影響は他の獲得済商談における単価上昇や生産数量の増加などの影響で一部オフセットされ、結果的に、商談獲得金額の合計に対する影響は数%の減少となっています。詳細については、本資料3ページをご参照ください。

socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

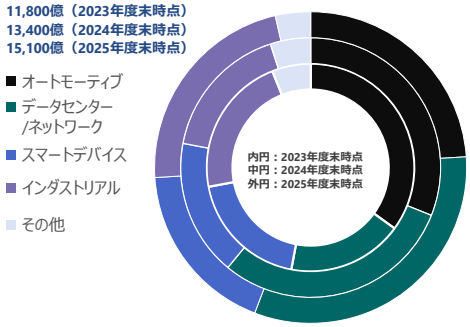
商談獲得残高　アプリケーション別及び地域別

2026年4月決算説明会
掲載資料

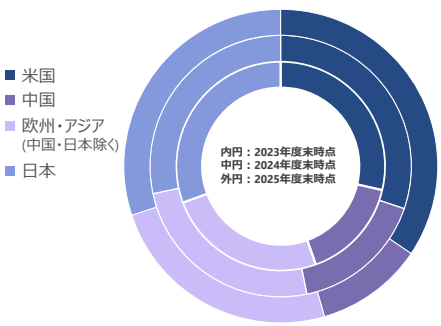
- アプリケーション別について
  - 2025年度はデータセンター/ネットワーク、インダストリアル分野などの商談獲得残高比率が増加
  - 中長期的には、オートモーティブ、データセンター/ネットワーク、その他分野(インダストリアルなど)でバランスの取れた構成を目指す
- 地域別について
  - 2025年度は米国・日本のシェアが若干増加したが、米国、中国を含むその他地域、日本の各地域でバランスの取れた構成を維持

アプリケーション別

商談獲得残高
11,800億（2023年度末時点）
13,400億（2024年度末時点）
15,100億（2025年度末時点）



地域別[1]



1. 商談獲得残高における地域別は当社地域会社別ベースとなっています。

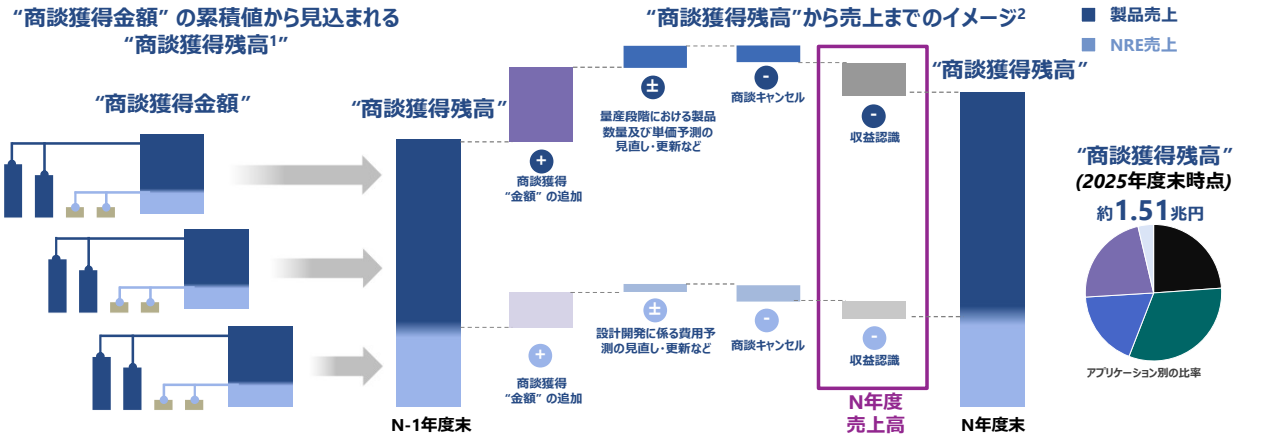
socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

商談獲得金額から売上までのイメージ
“商談獲得残高”とは

“商談獲得残高”とは

“商談獲得残高”は、ある時点までに獲得され存続している商談の“商談獲得金額”の累積値から見込まれる顧客需要に関する当社の予測を示している。“商談獲得残高”は商談を獲得した期間の末から残高確認時点までの進捗又は変化を反映したものである。“商談獲得残高”は将来のリスクを都度反映するよう、保守的な方法で定期的に見直される



1.商談獲得金額は、当該商談を獲得した後に生じる事後的な状況の変化を反映して更新しておりません。こうした事後的な状況の変化には、(1) 実際の売上、開発計画、販売数量、製品単価、製造キャパシティなどの要因の変動、ならびに (2) 商談獲得後の案件の中止が含まれます。獲得済みの商談について、将来、案件がキャンセルされる可能性もあります。これら商談獲得後の事後的な状況の変化による影響は、商談獲得残高に反映されます。商談獲得残高とは、特定の時点において存続している案件に係る商談獲得金額の残存額についての、当該時点における当社の見積りを表すものです。上述の (1) および (2) を含む事後的な状況の変化による影響は、商談獲得残高に反映されます。FY19からFY25までの商談獲得金額の合計について、およそ15%に相当する商談が事後的に中止となっていますが、これらの案件のキャンセルによる影響は、他の獲得済商談における単価上昇や生産数量の増加などの影響で、商談獲得金額の合計に対して数%の減少となっています。
詳細については、本資料3ページをご参照ください。
2.説明目的の図となっています。

socionext

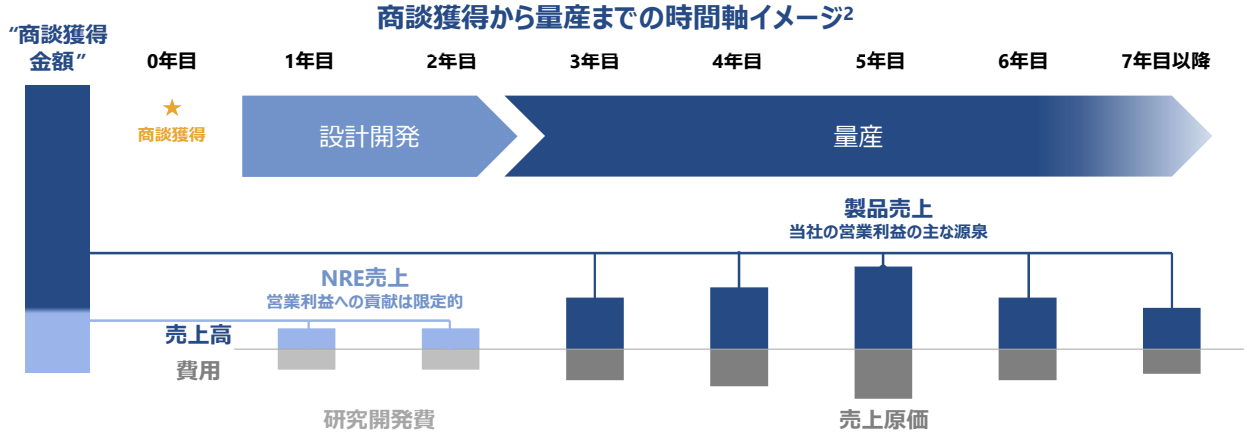
Copyright 2026 Socionext Inc.

商談獲得から量産までのイメージ
“商談獲得金額”とは

“商談獲得金額”とは

“商談獲得金額”は、獲得した商談から見込まれる将来の顧客需要に関する当社の予測を示している。
“商談獲得金額”は*NRE*由来のものと製品由来のものに分けられる。“商談獲得金額”は、プロジェクトが量産段階に進むと製品売上に貢献する見込み
なお、当社は “商談獲得金額”を例えば以下のように保守的に算出している
- 顧客に提示された売上高予想ではなく、当社予測による製品単価や将来の製品の販売数量などの一定の前提に基づいて個別の “商談獲得金額”を予測[1]
- 想定為替レートは*1*ドル＝*120*円を使用

商談獲得から量産までの時間軸イメージ[2]



1. P.3をご参照下さい。
2. 説明目的の図であり、製品開発から量産までの実際のタイムラインは、製品や実際の顧客の需要によって大きく異なる場合もあります。

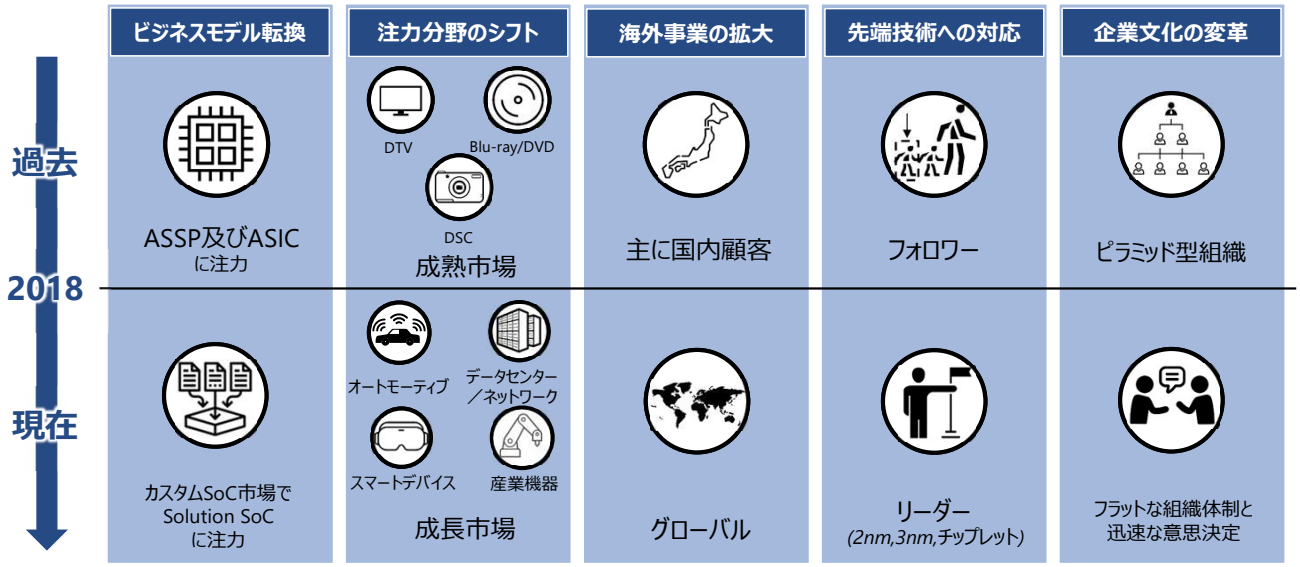
socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.

先端領域におけるグローバルカスタムSoCベンダーへの転換

2026年4月決算説明会
掲載資料

- 事業及び企業文化の変革を通じ、新しい独自のビジネスモデル”Solution SoC”で業界をリードするグローバルなカスタムSoCベンダーに転換



socionext

Copyright 2026 Socionext Inc.


socionext™
The Solution SoC Company